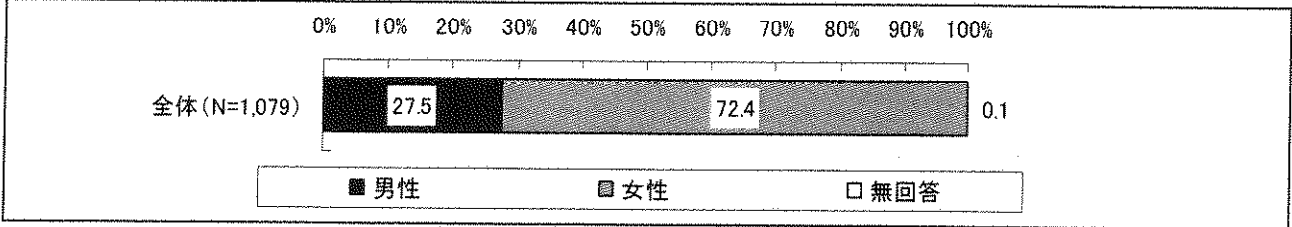


第4章 在宅高齢者・家族用調査

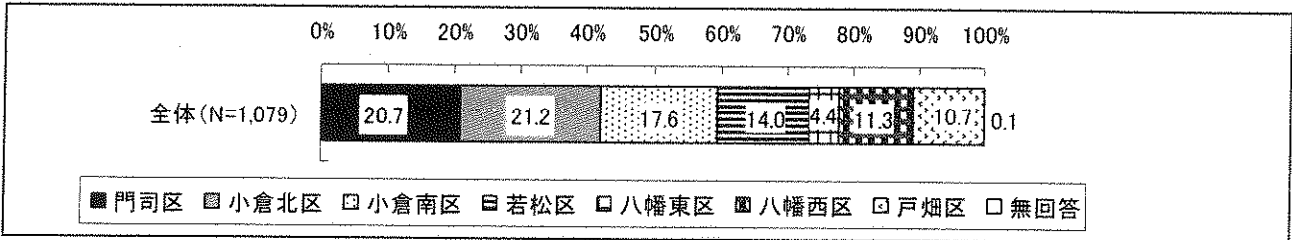
第4章 在宅高齢者・家族用調査

1. 回答者の基本属性

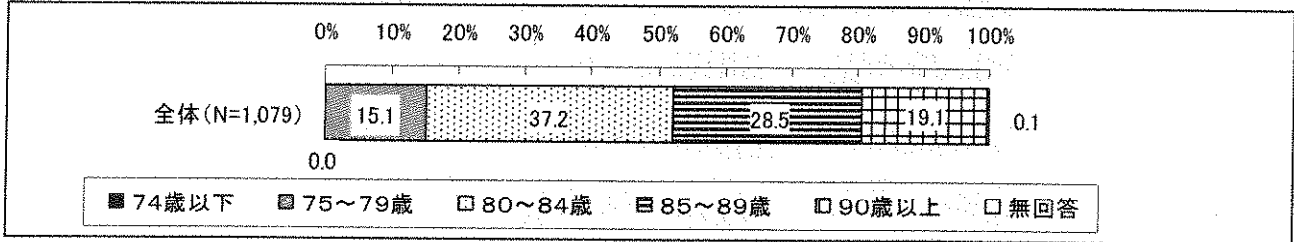
(1) 性別



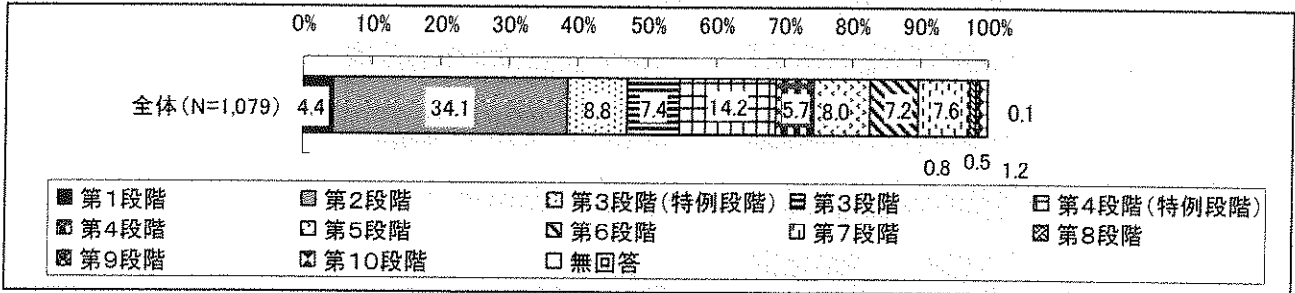
(2) 居住区



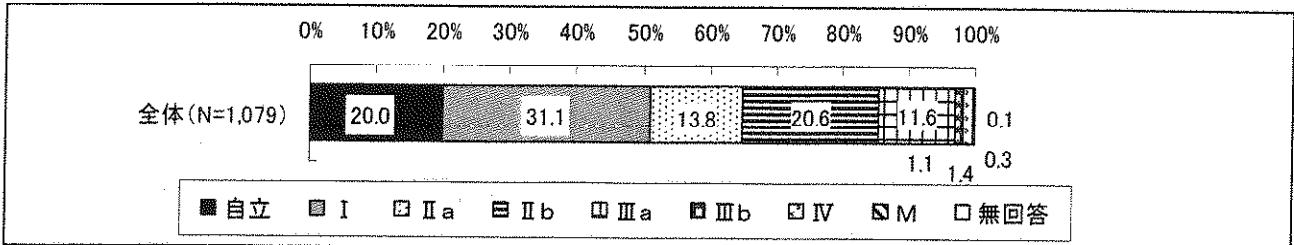
(3) 年齢



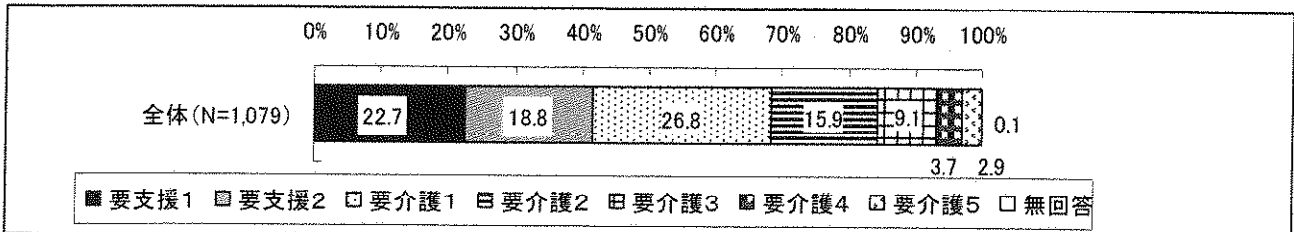
(4) 所得段階



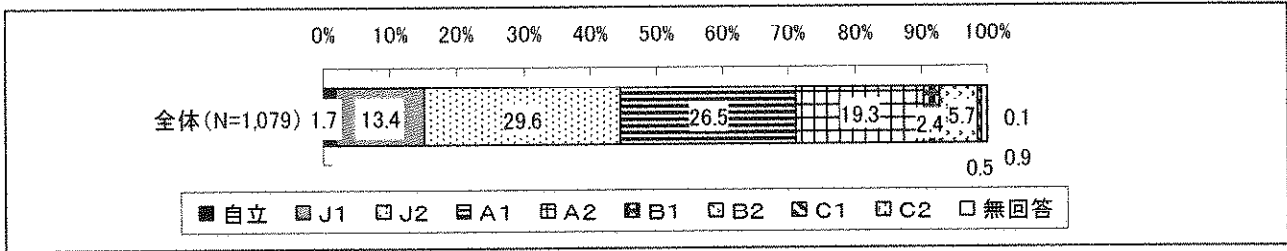
(5) 認知症自立度



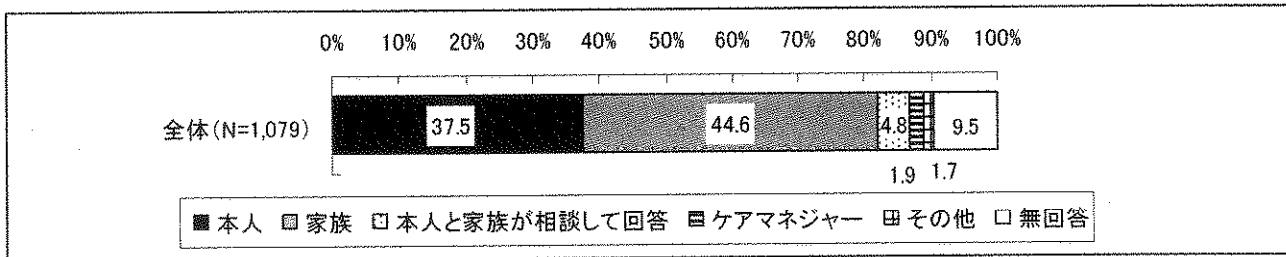
(6) 要介護度



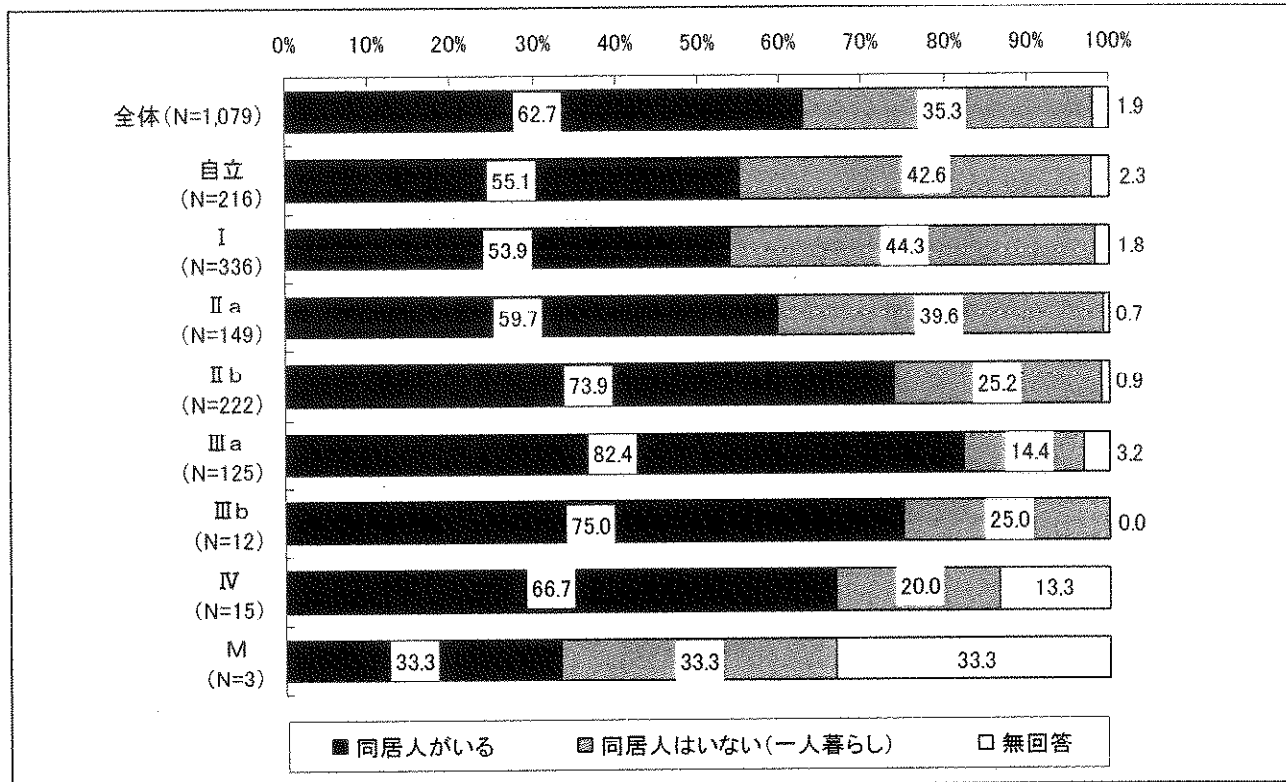
(7) 身体状況（障害老人の日常生活自立度）



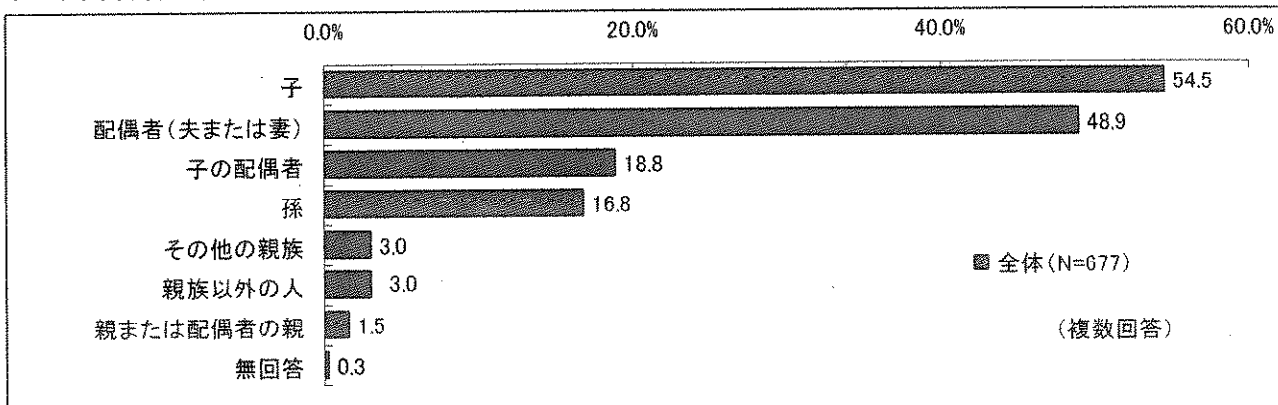
(8) 調査の回答者



(9) 同居の有無

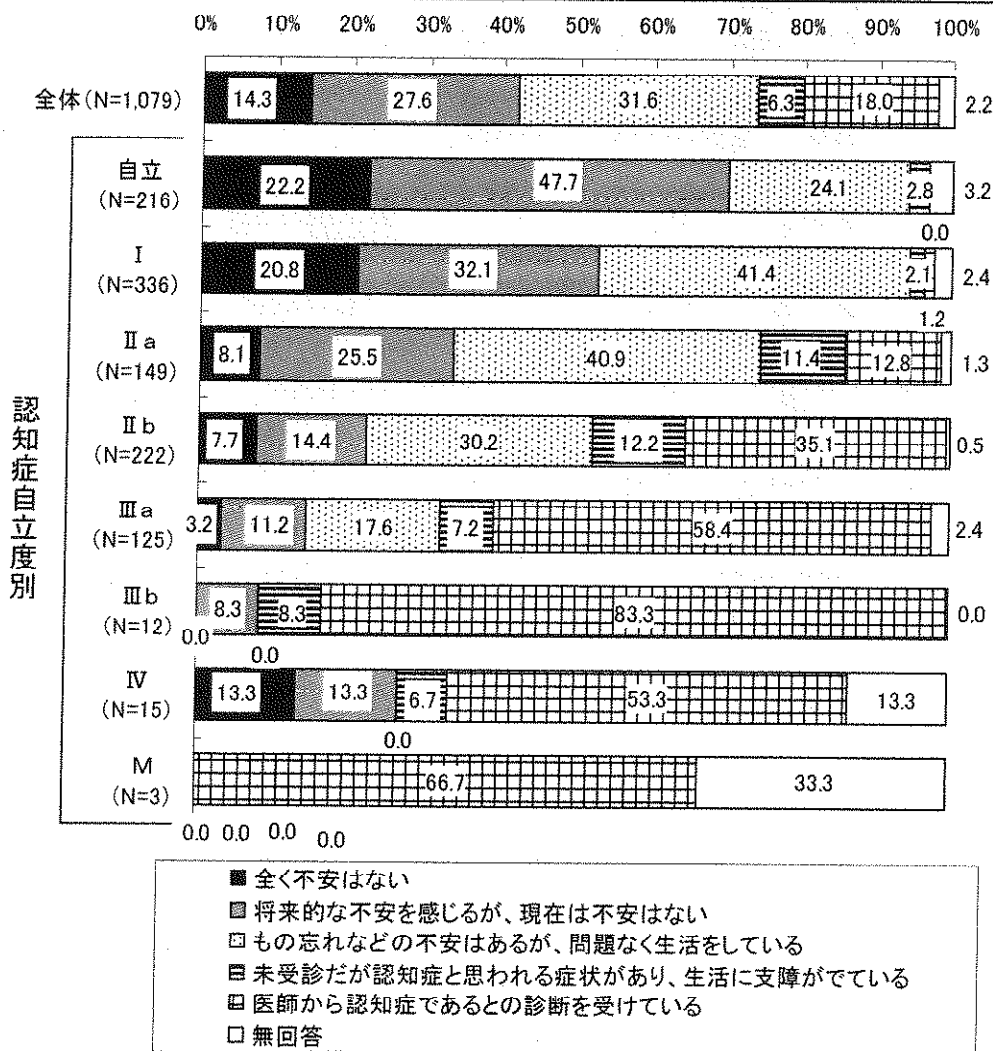


(10) 同居者の続柄



2. 認知症の疑い・不安

問3 普段の生活で、認知症に関して何らかの不安を感じることはありますか。
(いずれか一つに○)



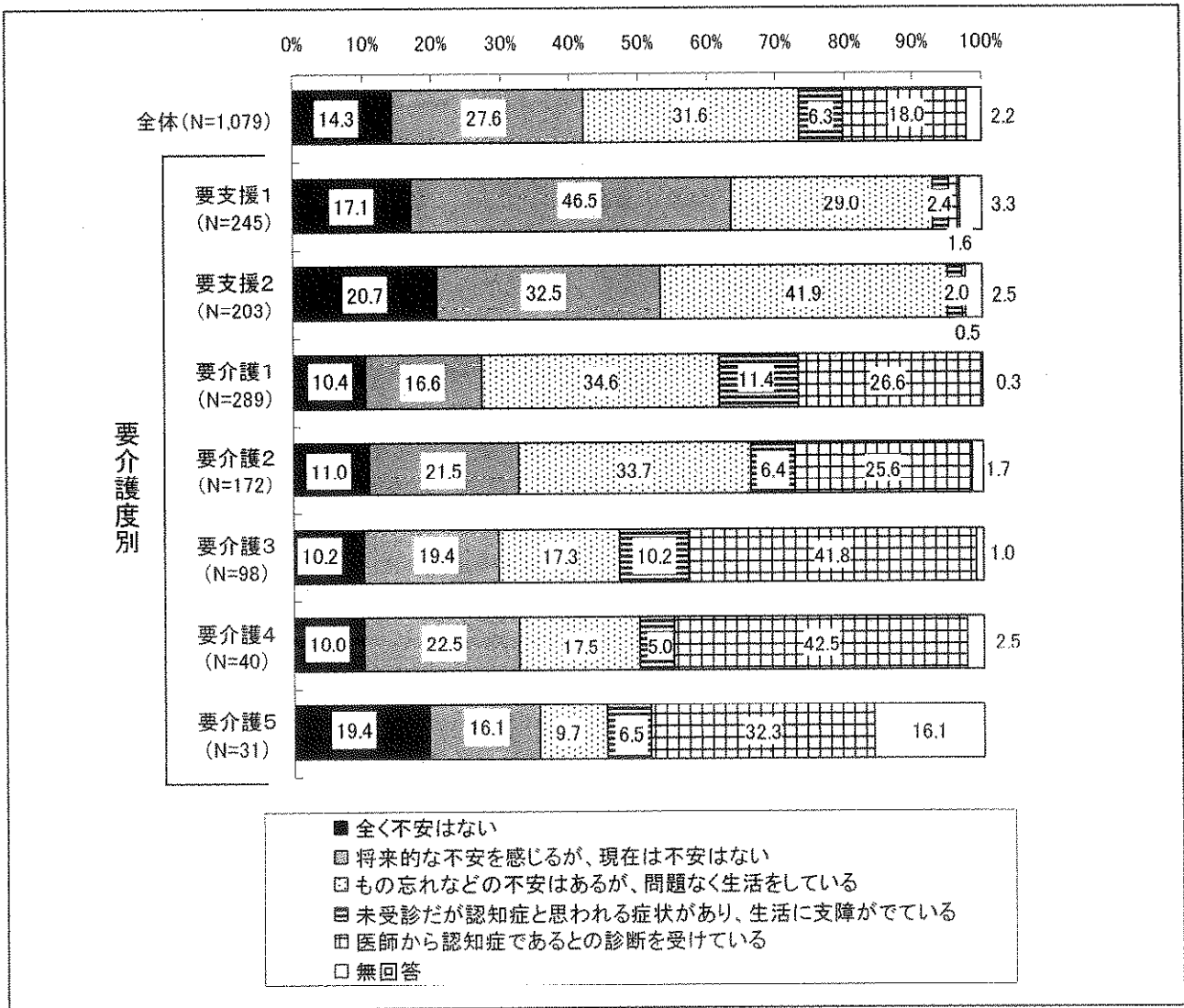
認知症の疑い・不安に関しては、「もの忘れなどの不安はあるが、問題なく生活をしている」(31.6%)が最も多く、次いで「将来的な不安を感じるが、現在は不安はない」(27.6%)となっている。

また、「未受診だが認知症と思われる症状があり、生活に支障がでている」は6.3%、「医師から認知症であるとの診断を受けている」は18.0%となっており、これらをあわせた認知症(疑い含む)の人は2割強(24.3%)を占めている。

《認知症自立度別》

自立では「将来的な不安を感じるが、現在は不安はない」の割合が最も高く、I・II aでは「もの忘れなどの不安はあるが、問題なく生活をしている」の割合が最も高くなっている。II b以上になると「医師から認知症であるとの診断を受けている」の割合が最も高く、特にIII a以上では過半数を占めている。

また、II a・II bでは「未受診だが認知症と思われる症状があり、生活に支障がでている」が1割を超えており、他に比べて割合が高い。



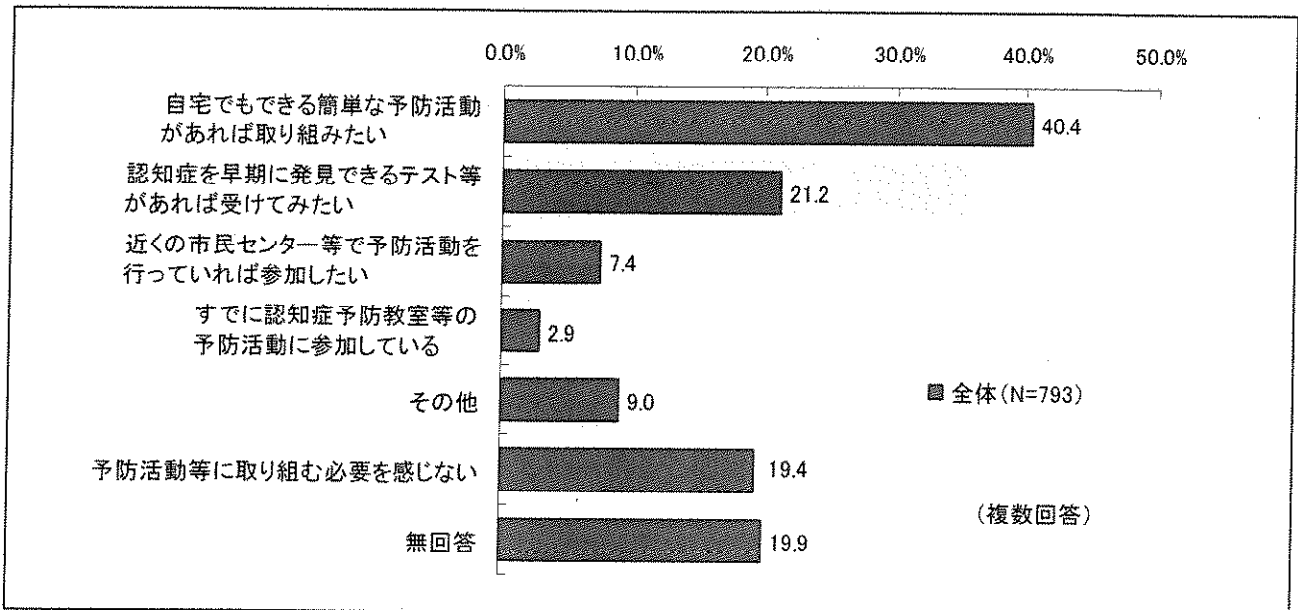
《要介護度別》

要支援1では「将来的な不安を感じるが、現在は不安はない」の割合が、要支援2では「もの忘れなどの不安はあるが、問題なく生活をしている」の割合が最も高く、それぞれ4割以上を占めている。また、要介護1・2でも「もの忘れなどの不安はあるが、問題なく生活をしている」の割合が最も高く、3割以上を占めているものの、「医師から認知症であるとの診断を受けている」の割合も3割弱を占めて高い。要介護3以上になると「医師から認知症であるとの診断を受けている」の割合が最も高く、特に要介護3・4では4割を超えている。

3. 認知症の予防意識

[認知症の不安なし・日常生活に支障なしの方へ]

問3-1 認知症の予防等についてどのように考えていますか。(複数回答可)



認知症に関して不安がない方や日常生活に支障がない方の予防意識については、「自宅でもできる簡単な予防活動があれば取り組みたい」が4割(40.4%)で最も多く、次いで「認知症を早期に発見できるテスト等があれば受けてみたい」(21.2%)となっている。

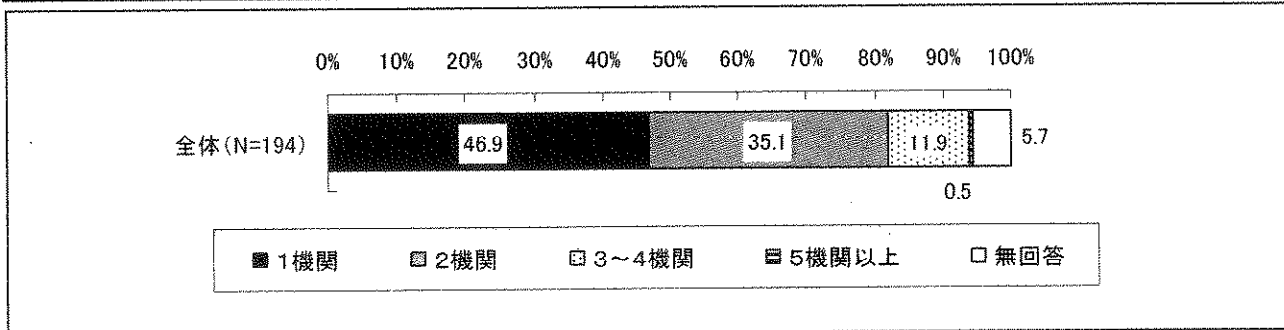
また、「予防活動等に取り組む必要を感じない」も2割(19.4%)を占めている。

4. 認知症診断時の状況

(1) 受診医療機関数

[医師が認知症と診断済みの方へ]

問4 認知症であるとの診断を受けるまでにいくつの医療機関を受診しましたか。(数を記入)

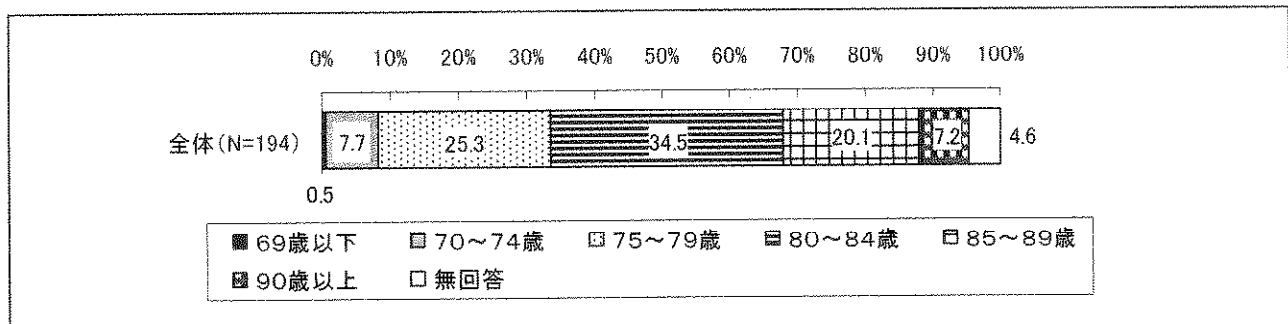


認知症の診断を受けている方のうち、「1機関」の受診で診断が出た人が半数弱（46.9%）を占めて最も多い。また、「2機関」の受診で診断がでた人は35.1%であり、3機関以上受診して診断がでた人も1割を超えている（12.4%）。

(2) 認知症の診断を受けた時の年齢

[医師が認知症と診断済みの方へ]

問4 認知症であると初めて診断を受けた時の年齢は何歳ですか。(数を記入)



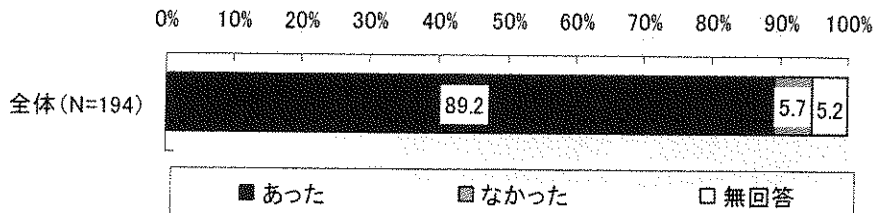
認知症の診断を受けた時の年齢は、「80~84歳」（34.5%）が最も多く、次いで「75~79歳」（25.3%）、「85~89歳」（20.1%）となっている。

(3) 認知症の告知

① 認知症診断時の告知の有無

[医師が認知症と診断済みの方へ]

問5 認知症の診断時に告知はありましたか。(いずれか一つに○)

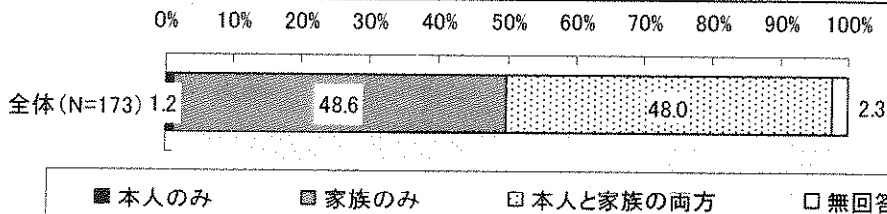


認知症診断時の告知の有無は「あった」が大半(89.2%)を占めている。

② 認知症の告知を受けた人

[認知症の告知ありの方へ]

問5-1 告知はどなたにありましたか。(いずれか一つに○)

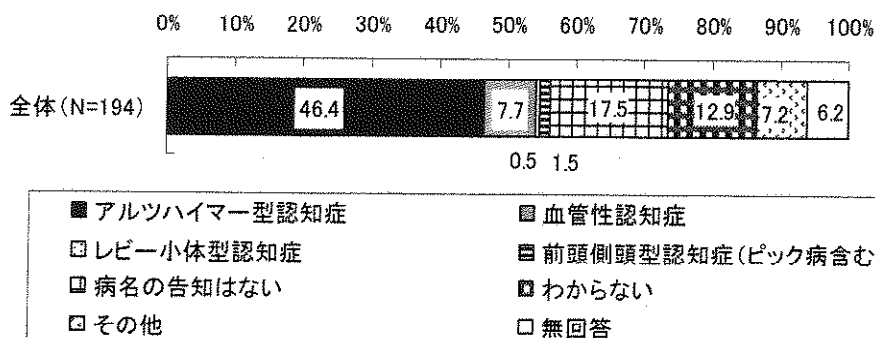


認知症の告知を受けた人は、「家族のみ」(48.6%)と「本人と家族の両方」(48.0%)が約半数ずつを占めている。

(4) 認知症の原因疾患

[医師が認知症と診断済みの方へ]

問6 現在、病名は何とされていますか。(いずれか一つに○)



認知症の原因疾患は、「アルツハイマー型認知症」が半数弱(46.4%)を占めて最も多い。またこれに次いで「病名の告知はない」(17.5%)、「わからない」(12.9%)となっている。

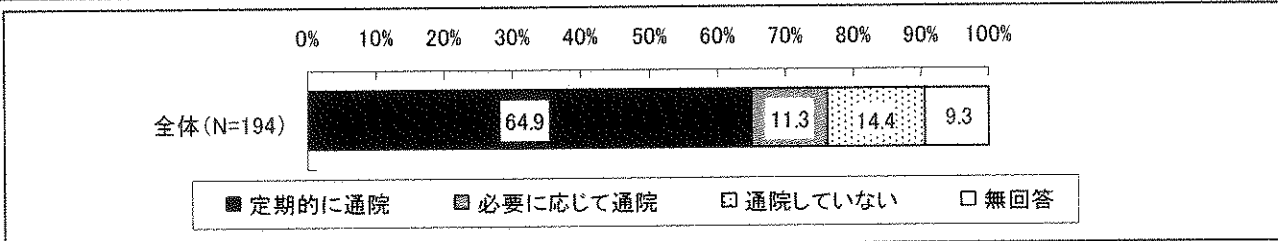
5. 認知症の治療状況

(1) 認知症に関する通院状況

① 通院状況

[医師が認知症と診断済みの方へ]

問7 現在の認知症に関する通院の状況を教えてください。(いずれか一つに○)

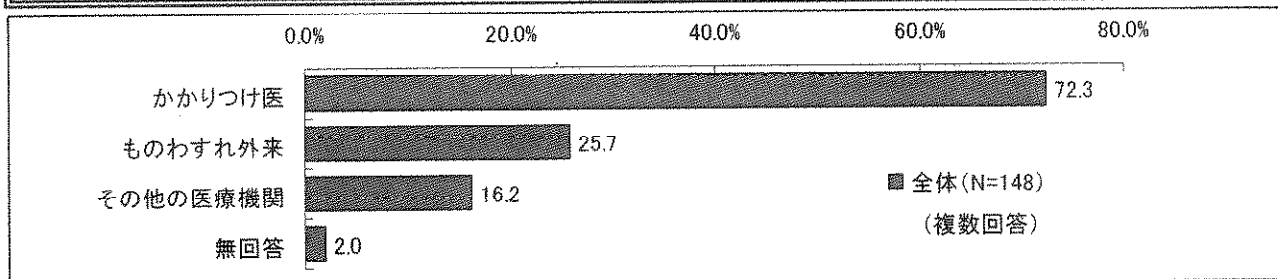


認知症に関する通院状況は、「定期的に通院」が7割弱（64.9%）を占めている。また、「必要に応じて通院」は11.3%、「通院していない」も14.4%と1割を超えている。

② 通院中の医療機関

[認知症で通院中の方へ]

問7-1 通院しているのはどのような医療機関ですか。(複数回答可)

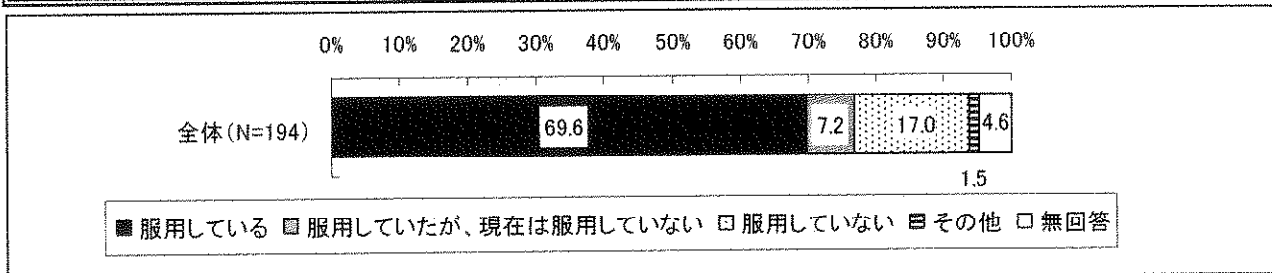


認知症に関して「定期的に通院」または「必要に応じて通院」している人の通院先は、「かかりつけ医」が7割以上（72.3%）を占めて最も多く、次いで「ものわすれ外来」（25.7%）、「その他の医療機関」（16.2%）となっている。

(2) 薬の服用状況

[医師が認知症と診断済みの方へ]

問8 現在、認知症の薬を服用していますか。(いずれか一つに○)



認知症の薬の服用状況は、「服用している」が7割（69.6%）を占めている。

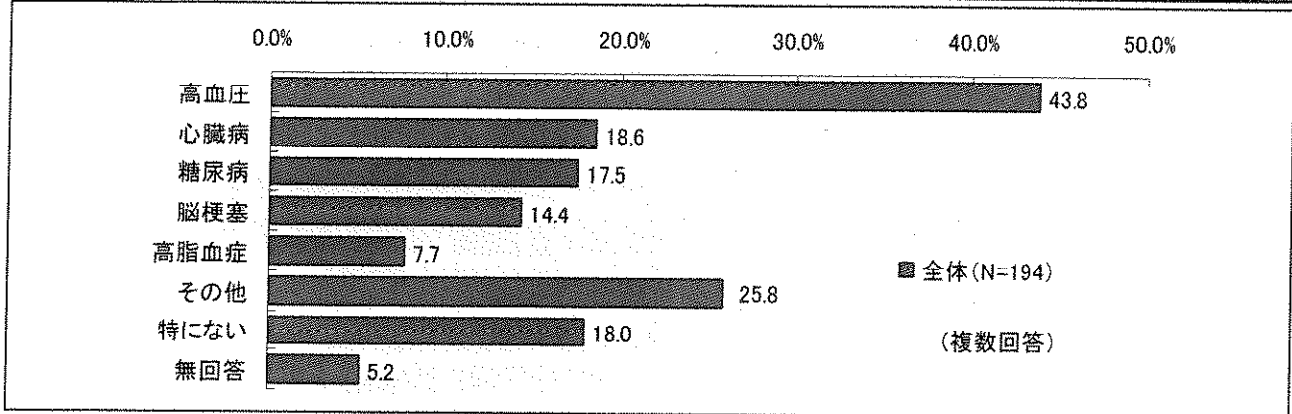
また、「服用していたが、現在は服用していない」は7.2%、「服用していない」は17.0%であり、これらをあわせた認知症の薬を服用していない人は24.2%となっている。

6. 認知症以外の疾患

(1) 認知症以外の疾患

[医師が認知症と診断済みの方へ]

問9 現在、認知症以外に下記の疾患等がありますか。(複数回答可)



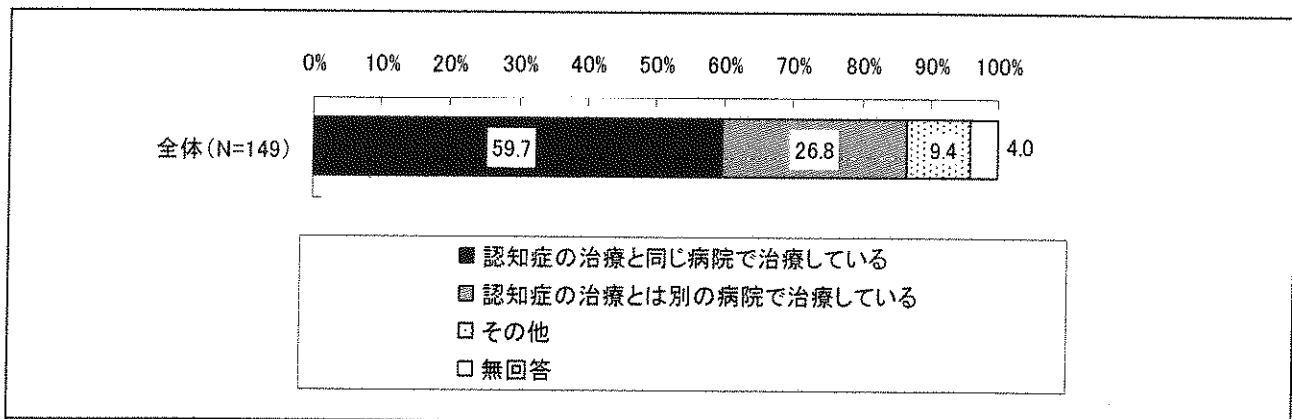
認知症以外の疾患は、「高血圧」が4割以上(43.8%)で最も多く、次いで「心臓病」(18.6%)、「糖尿病」(17.5%)となっている。

また、「その他」も25.8%となっているが、その内容としては「脊柱管狭窄症」や「リウマチ」「腎不全」等があがっている。

(2) 治療を受けてる病院

[認知症以外の疾患がある方へ]

問9-1 問9の疾患等の治療はどのようにしていますか。(いずれか一つに○)



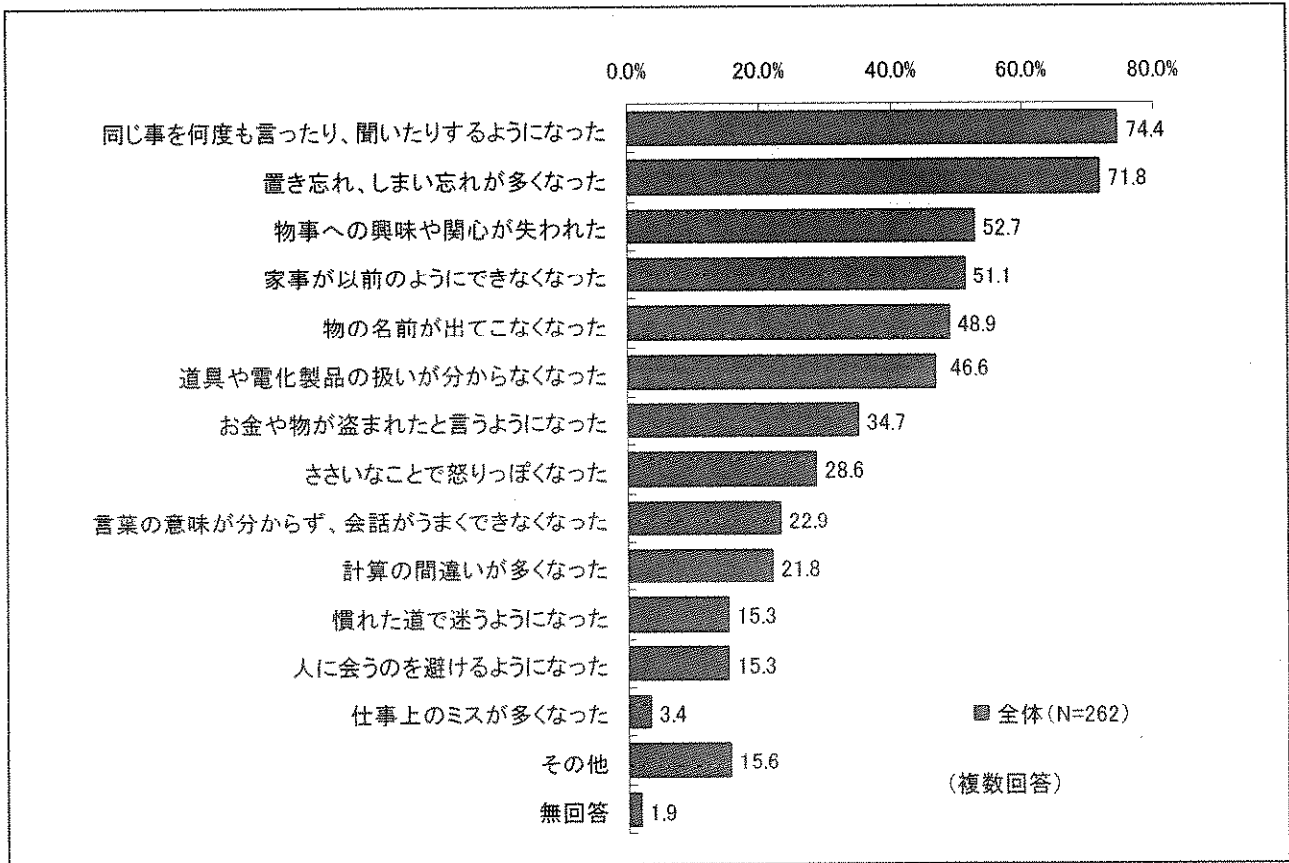
認知症以外の疾患がある人の、その治療状況については「認知症の治療と同じ病院で治療している」が6割(59.7%)を占めており、「認知症の治療とは別の病院で治療している」は26.8%となっている。

7. 認知症の気づき

(1) 認知症に気づいたきっかけ

[認知症の疑いあり・医師が認知症と診断済みの方へ]

問10 認知症ではないかと気付いた、あるいは不安に思うきっかけとなったのは、どのようなこと（変化）でしたか。（複数回答可）



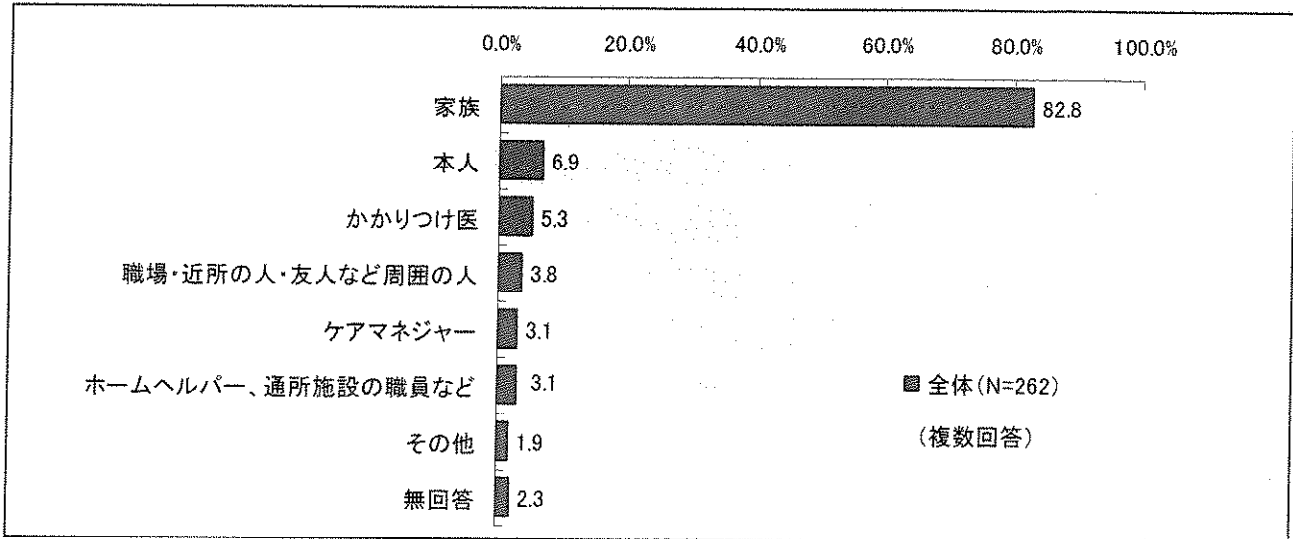
認知症に気づいたきっかけは、「同じ事を何度も言ったり、聞いたりするようになった」(74.4%) や「置き忘れ、しまい忘れが多くなった」(71.8%) が7割以上で多くなっている。

また、これに次いで「物事への興味や関心が失われた」(52.7%)、「家事が以前のようにできなくなった」(51.1%) となっている。

(2) 認知症に気づいた人

[認知症の疑いあり・医師が認知症と診断済みの方へ]

問11 問10の変化に最初に気づいたのはどなたでしたか。(いずれか一つに○)
※複数回答を容認して集計



認知症に気づいた人は「家族」が8割以上(82.8%)である。

《認知症自立度別》

サンプル数が少ないため注意が必要だが、認知症自立度が軽いⅠ・Ⅱaでは、「本人」が気づく割合がⅡb以上に比べて高い。

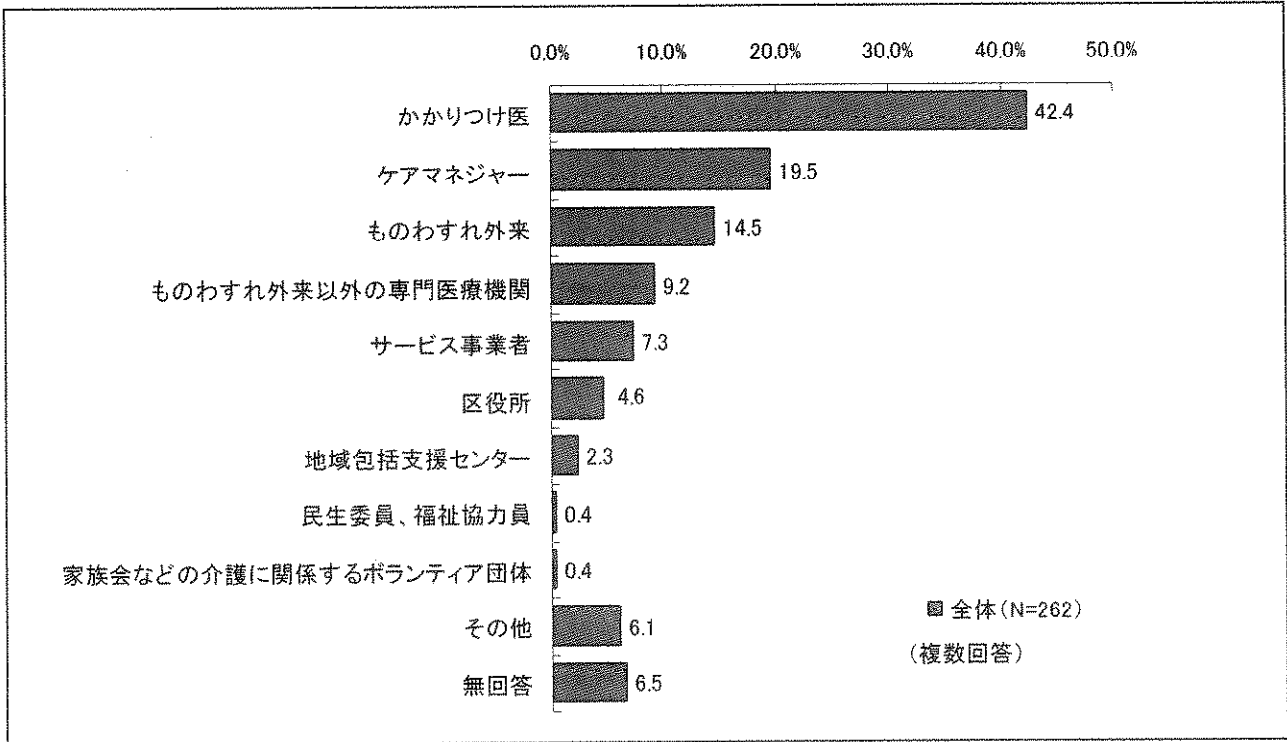
(単位: %)

	調査数(人)	家族	本人	かかりつけ医	職場・近所の人・友人など周囲の人	ケアマネジャー	通所施設の職員など	ホームヘルパー	その他	無回答
全体	262	82.8	6.9	5.3	3.8	3.1	3.1	1.9	2.3	
認知症自立度	自立	6	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-
	Ⅰ	11	72.7	18.2	-	-	-	-	-	9.1
	Ⅱa	36	80.6	13.9	-	2.8	5.6	2.8	-	-
	Ⅱb	105	80.0	5.7	8.6	7.6	4.8	4.8	1.9	1.0
	Ⅲa	82	87.8	1.2	6.1	-	-	1.2	3.7	4.9
	Ⅲb	11	100.0	-	-	-	9.1	9.1	-	-
	Ⅳ	9	88.9	11.1	-	11.1	-	-	-	-
	M	2	100.0	-	-	-	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

■ 全体結果よりも5ポイント以上高い
■ 全体結果よりも5ポイント以上低い

(3) 認知症の相談・受診先

[認知症の疑いあり・医師が認知症と診断済みの方へ]
 問12 問10の変化に気づいたときに、家族、親戚、知人以外で最初に相談（または受診）したのはどこですか。（いずれか一つに○）
 ※複数回答を容認して集計



認知症に気づいたときの相談・受診先は、「かかりつけ医」が4割以上（42.4%）で最も多く、次いで「ケアマネジャー」（19.5%）、「ものわすれ外来」（14.5%）となっている。

《認知症自立度別》

認知症自立度別にみても大きな違いはみられない。

(単位: %)

	調査数 (人)	かかりつけ医	ケアマネジャー	ものわすれ外来	機関以外のものわすれ外来	サービス事業者	区役所	地域包括支援センター	民生委員、福祉協力員	ラニテイア関係の団体	家族会などの介護関係のボ介	その他	無回答
全体	262	42.4	19.5	14.5	9.2	7.3	4.6	2.3	0.4	0.4	6.1	6.5	
認知症自立度	自立	6	16.7	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	50.0
	I	11	54.5	9.1	-	-	-	-	-	-	-	27.3	18.2
	II a	36	38.9	30.6	8.3	11.1	2.8	5.6	-	2.8	2.8	13.9	2.8
	II b	105	46.7	20.0	20.0	5.7	9.5	1.9	2.9	-	-	2.9	4.8
	III a	82	39.0	19.5	12.2	11.0	7.3	7.3	2.4	-	-	3.7	7.3
	III b	11	54.5	18.2	9.1	9.1	-	18.2	-	-	-	18.2	-
	IV	9	33.3	-	22.2	33.3	-	-	11.1	-	-	-	-
	M	2	-	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

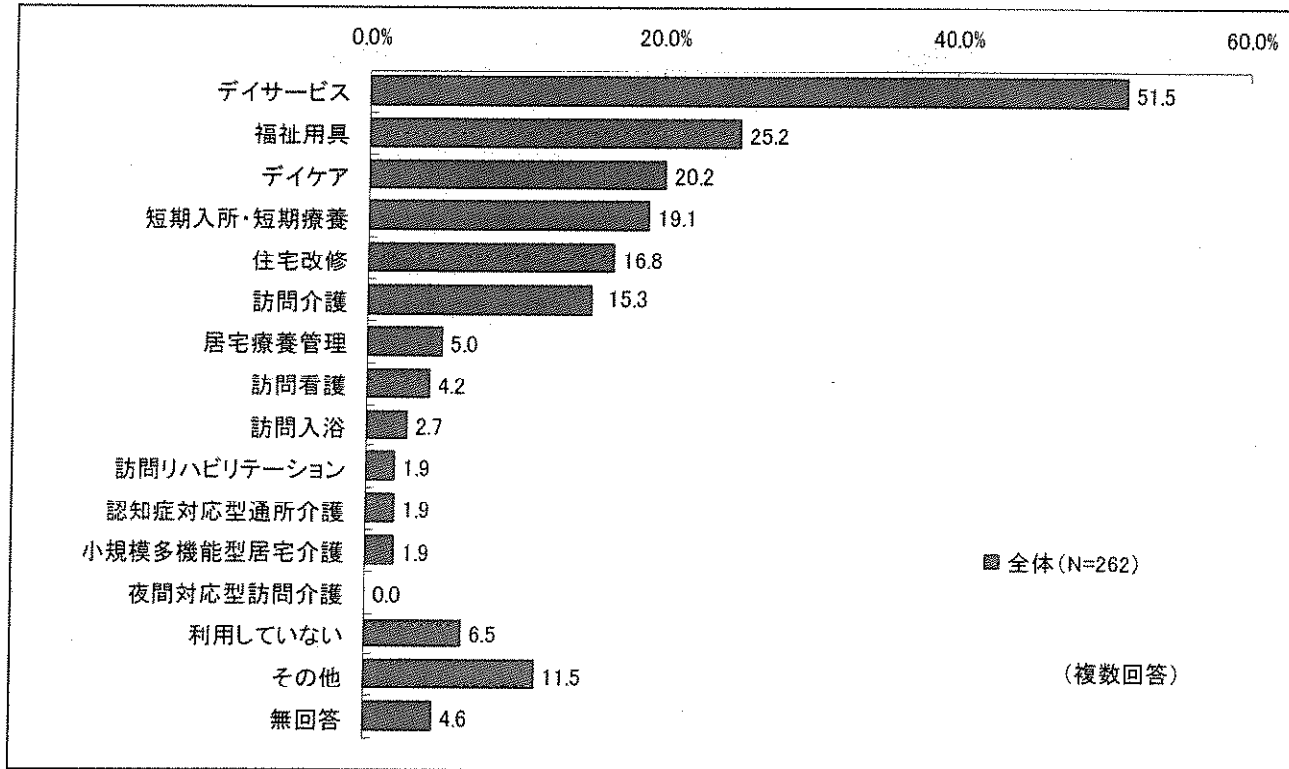
全体結果よりも5ポイント以上高い
 全体結果よりも5ポイント以上低い

8. 現在の状況

(1) 介護保険サービスの利用状況

[認知症の疑いあり・医師が認知症と診断済みの方へ]

問13 現在利用している介護保険サービスは何ですか。(複数回答可)

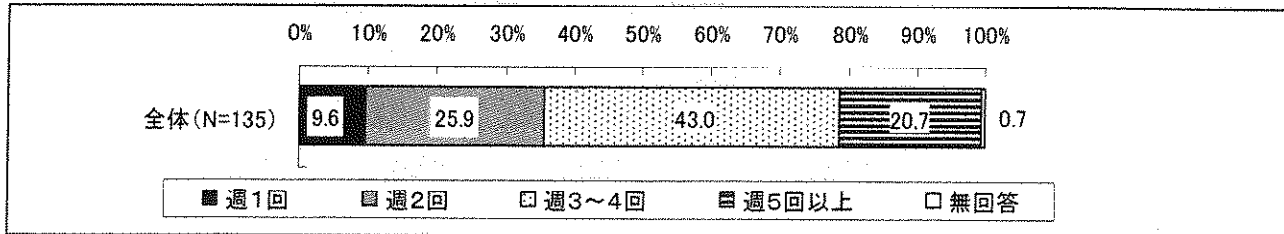


現在利用している介護保険サービスの種類は「デイサービス」が半数以上(51.5%)で最も多く、次いで「福祉用具」(25.2%)、「デイケア」(20.2%)となっている。

① デイサービスの利用頻度

[デイサービス利用者へ]

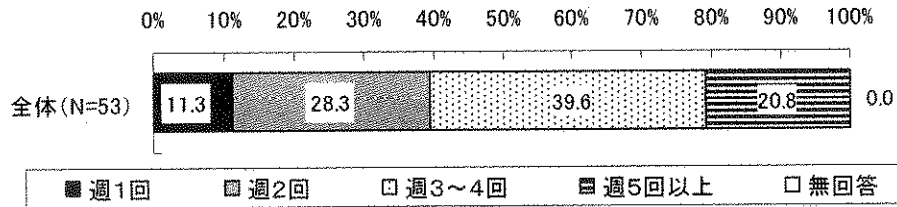
問13 (デイサービスを週に何回利用するか、数を記入)



デイサービスを利用している人の利用頻度は、「週3~4回」(43.0%)が最も多く、次いで「週2回」(25.9%)、「週5回以上」(20.7%)となっている。

② デイケアの利用頻度

[デイケア利用者へ]
問13 (デイケアを週に何回利用するか、数を記入)

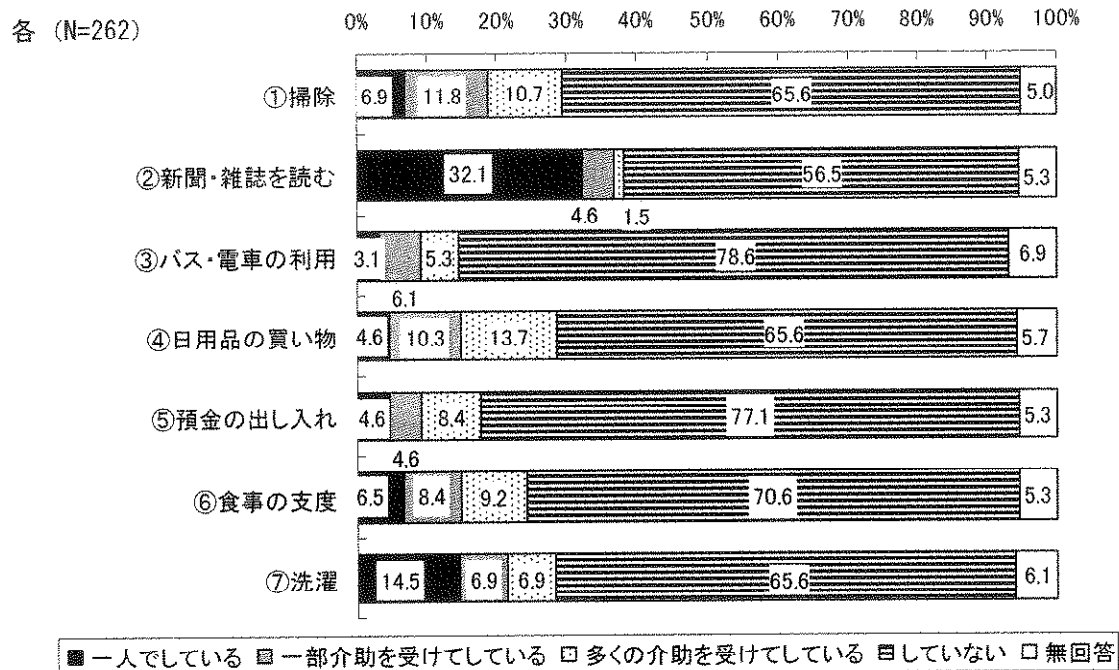


デイケアを利用している人の利用頻度は、デイサービスと同様にこちらも「週3~4回」(39.6%)が最も多く、次いで「週2回」(28.3%)、「週5回以上」(20.8%)となっている。

(2) 手段的日常生活動作

① 項目別

[認知症の疑いあり・医師が認知症と診断済みの方へ]
問14 普段の生活で、次にあげるようなことをしていますか。している場合、どの程度介助が必要ですか。(いずれか一つに○)

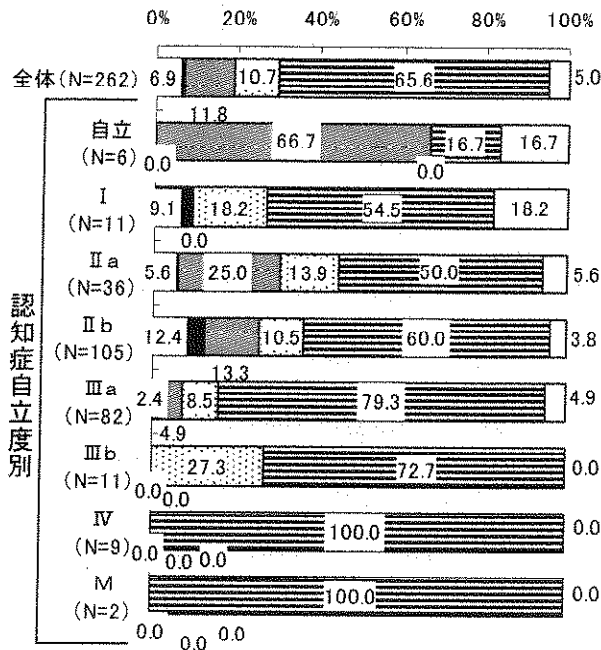


手段的日常生活動作については、①~⑦の全ての項目で「していない」が過半数を占めており、特に『③バス・電車の利用』(78.6%)や『⑤預金の出し入れ』(77.1%)では8割弱を占めて割合が高い。

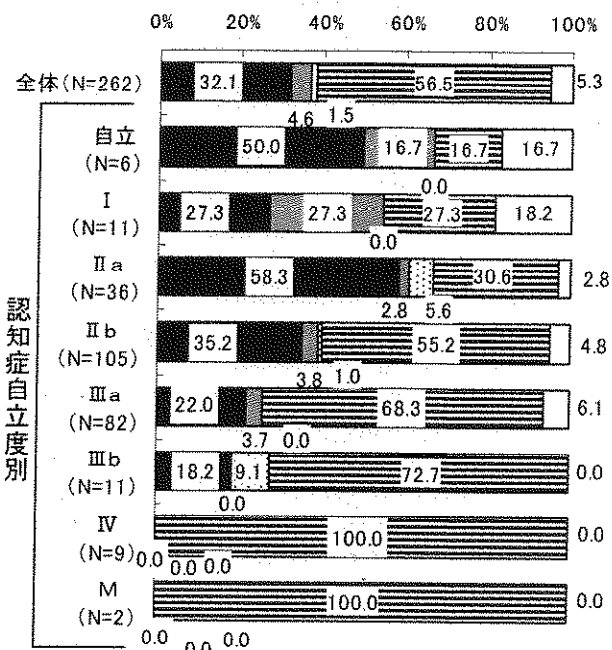
一方、「一人でしている」の割合をみると、『②新聞・雑誌を読む』が3割強(32.1%)を占めており、他の項目に比べて割合が高い。②以外の項目については、「一人でしている」と「一部介助を受けている」を合わせた割合をみても、いずれも1~2割前後に留まっている。

② 認知症自立度別

【①掃除】



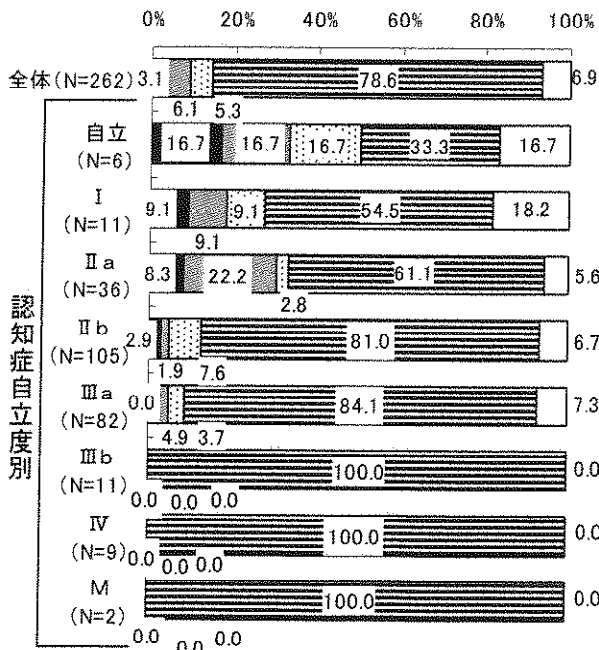
【②新聞・雑誌を読む】



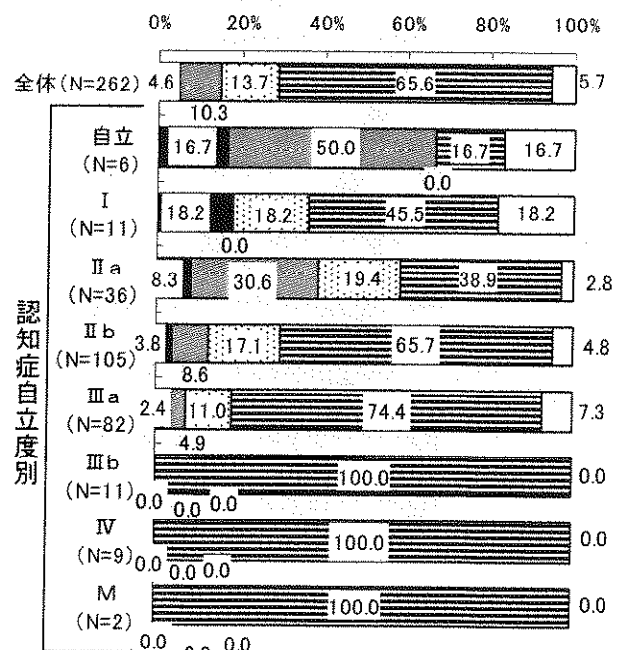
■ 一人で行っている □ 多くの介助を受けている □ 無回答
 ■ 一部介助を受けている □ していない

■ 一人で行っている □ 多くの介助を受けている □ 無回答
 ■ 一部介助を受けている □ していない

【③バス・電車の利用】



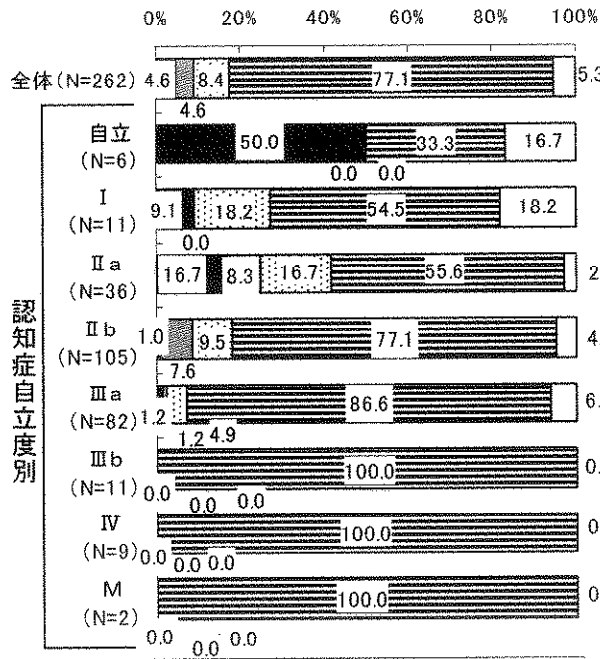
【④日用品の買い物】



■ 一人で行っている □ 多くの介助を受けている □ 無回答
 ■ 一部介助を受けている □ していない

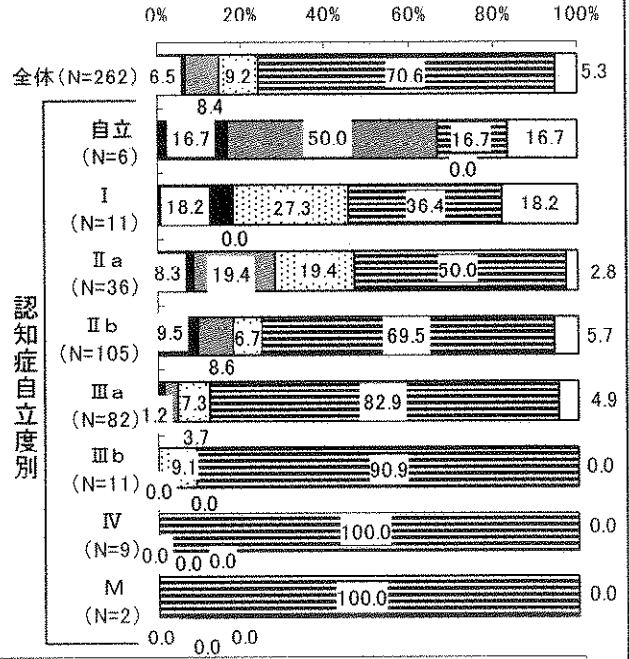
■ 一人で行っている □ 多くの介助を受けている □ 無回答
 ■ 一部介助を受けている □ していない

【⑤預金の出し入れ】



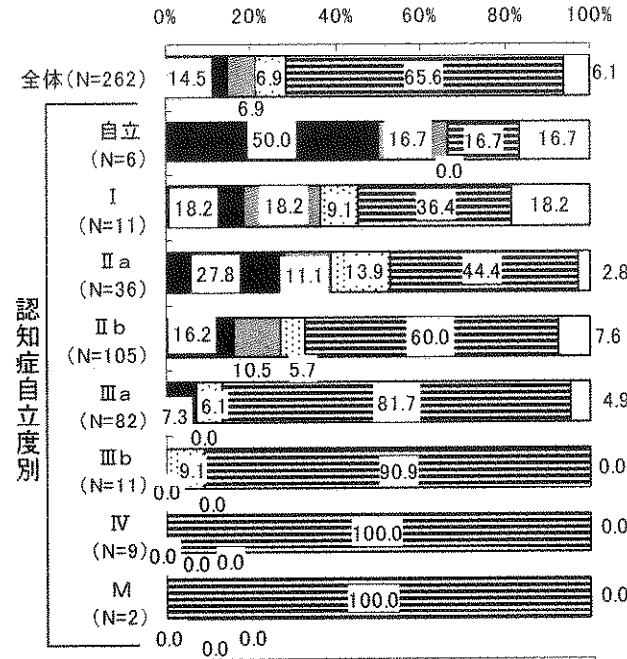
■ 一人でしている ■ 一部介助を受けている
 □ 多くの介助を受けている ■ していない
 □ 無回答

【⑥食事の支度】



■ 一人でしている ■ 一部介助を受けている
 □ 多くの介助を受けている ■ していない
 □ 無回答

【⑦洗濯】



■ 一人でしている ■ 一部介助を受けている
 □ 多くの介助を受けている ■ していない
 □ 無回答

《認知症自立度別》

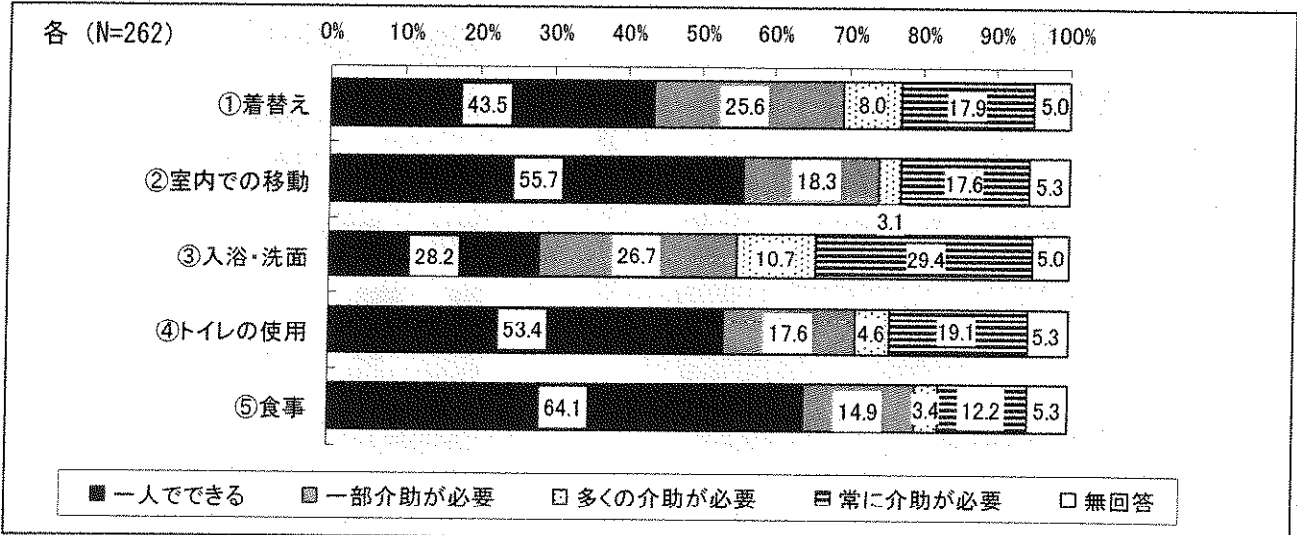
サンプル数が少ないため注意が必要だが、①～⑦のいずれの項目についても、概ね認知症自立度が重いほど「していない」の割合は高くなっている。また、認知症自立度が比較的軽いI・IIaでも『①掃除』『③バス・電車の利用』『⑤預金の出し入れ』については過半数が「していない」と回答している。

(3) 日常生活動作

① 項目別

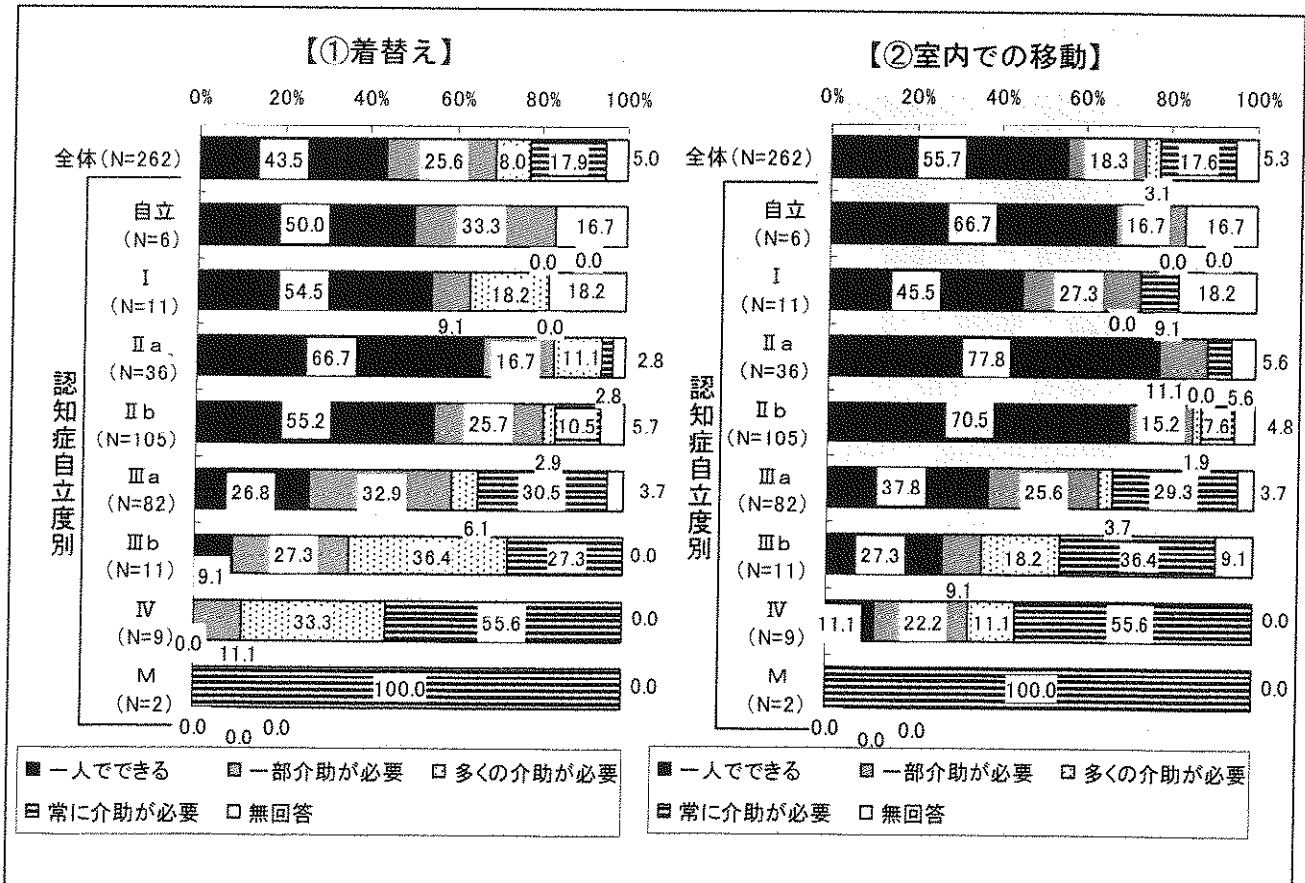
[認知症の疑いあり・医師が認知症と診断済みの方へ]

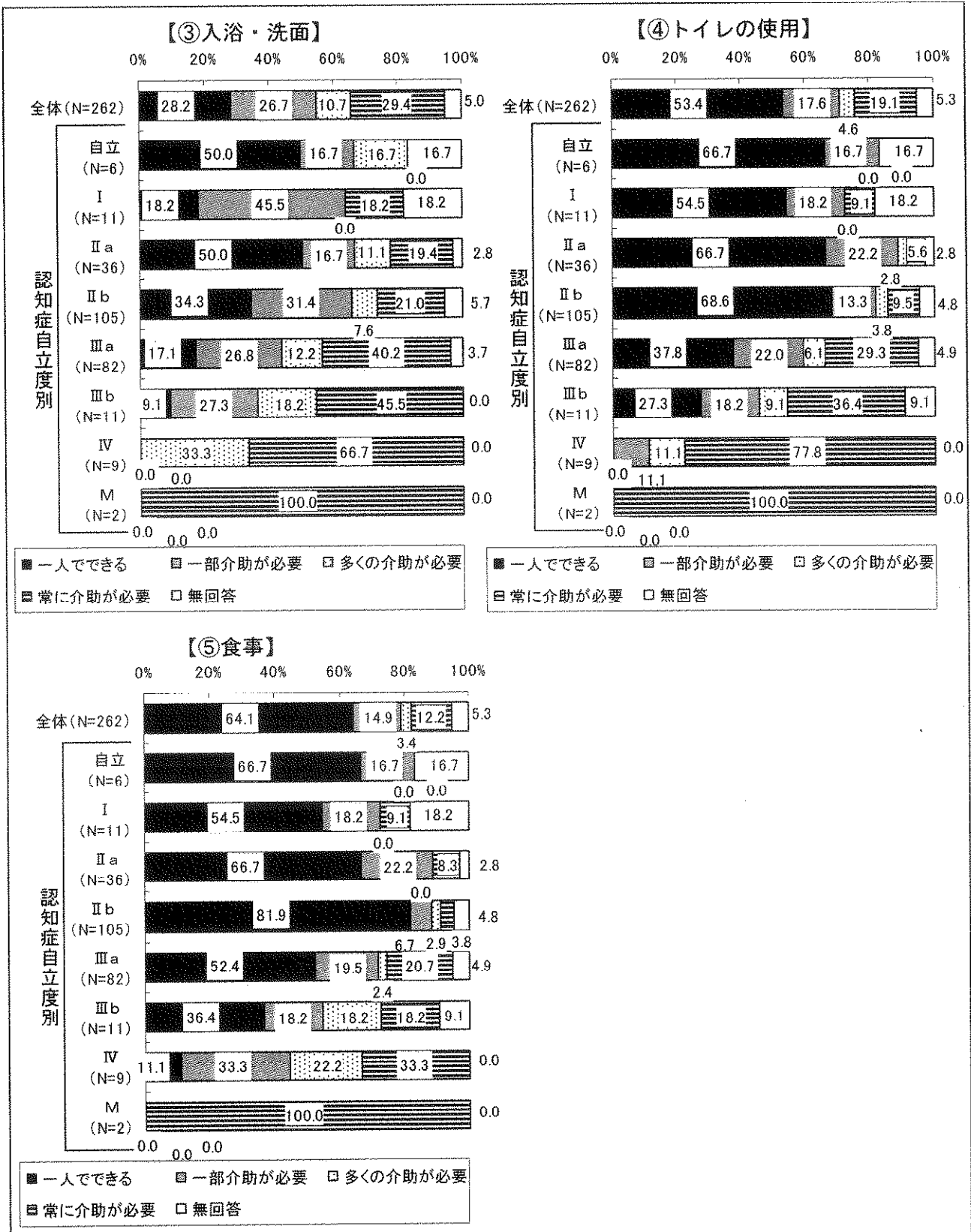
問15 次にあげる生活の場面で、現在どの程度介助が必要ですか。(いずれか一つに○)



日常生活動作については、『②室内での移動』や『④トイレの使用』『⑤食事』では「一人でできる」が6割前後を占めているものの、『①着替え』では4割強(43.5%)、『③入浴・洗面』では3割弱(28.2%)に留まっている。特に『③入浴・洗面』では「常に介助が必要」が3割(29.4%)を占めており、他に比べて介助を要する割合が高い。

② 認知症自立度別





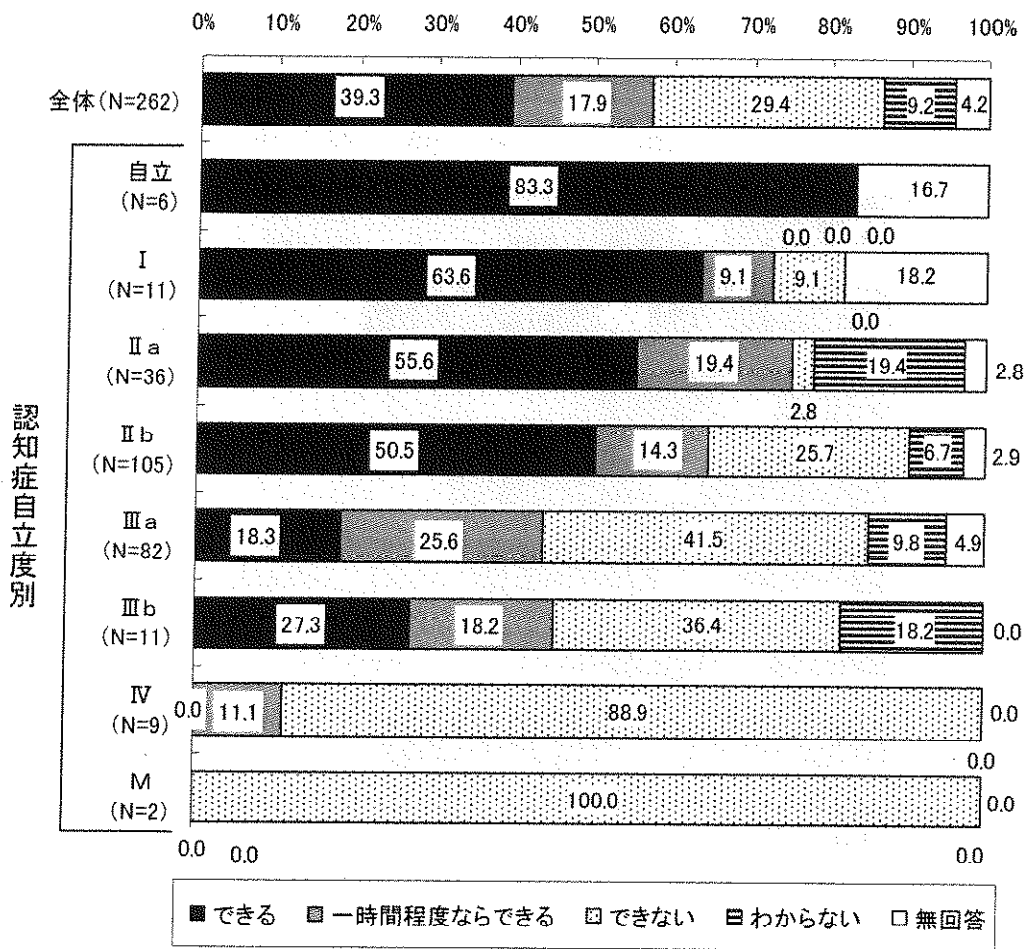
《認知症自立度別》

サンプル数が少ないため注意が必要だが、II b以上では①～⑤のいずれの項目についても、概ね認知症自立度が重いほど『介助が必要（「一部介助が必要」+「多くの介助が必要」+「常に介助が必要」）』の割合は高くなっている。また、II a・II bでは『③入浴・洗面』以外の項目で「一人でできる」が過半数を占めている。

(4) 長時間の留守番

[認知症の疑いあり・医師が認知症と診断済みの方へ]

問16 一人で長時間留守番をすることができますか。(いずれか一つに○)



一人で長時間の留守番については、「できる」が4割（39.3%）を占めて最も多く、次いで「できない」（29.4%）、「一時間程度ならできる」（17.9%）となっている。

《認知症自立度別》

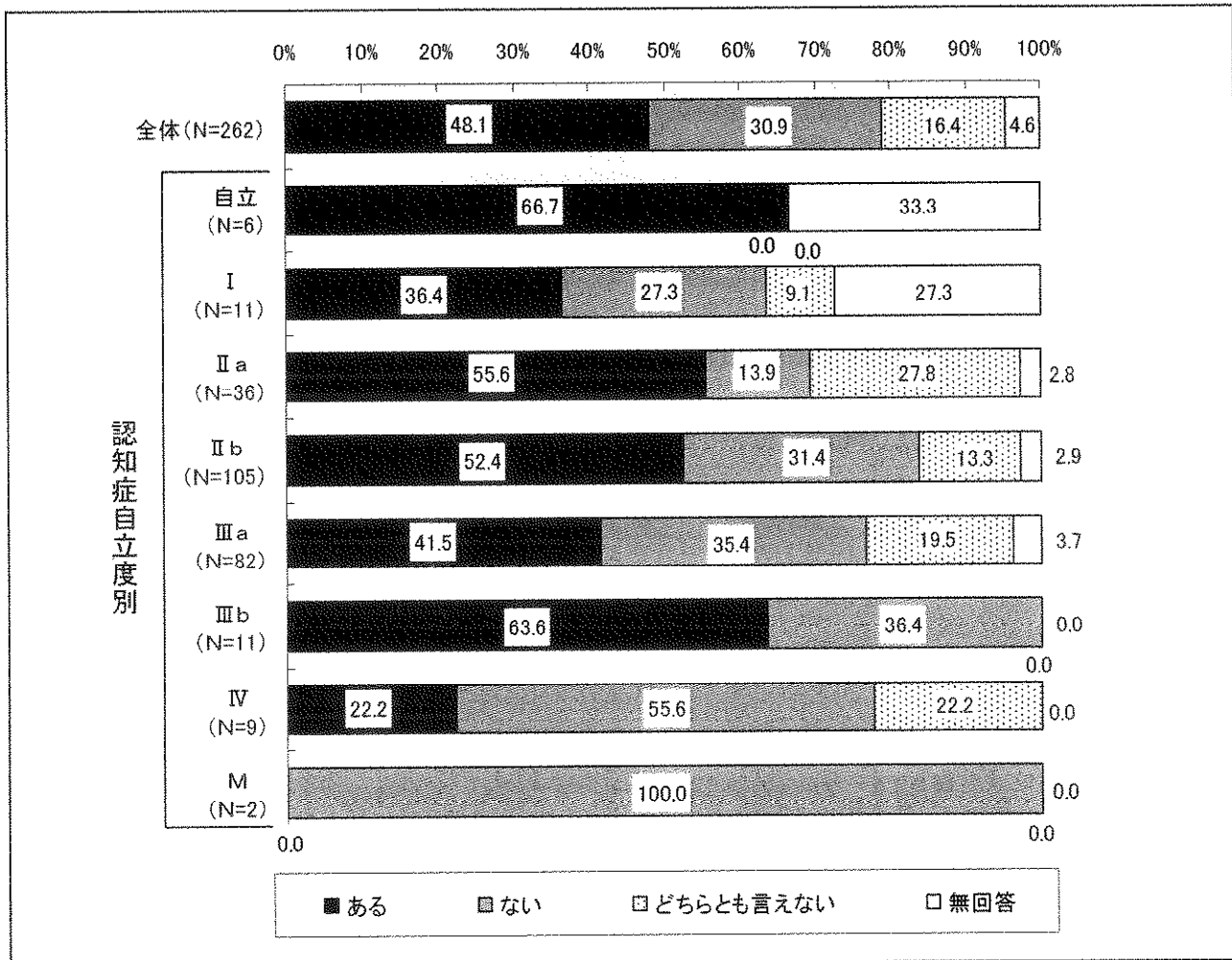
サンプル数が少ないため注意が必要だが、概ねII bとIII aを境に留守番の状況には違いが出ており、II b以下では「できる」が半数以上を占め、また認知症自立度が低いほど割合は高い。

一方、III a以上では「できない」の割合が最も高くなっている。

(5) 意欲的な活動、楽しみ

① 意欲的な活動、楽しみの有無

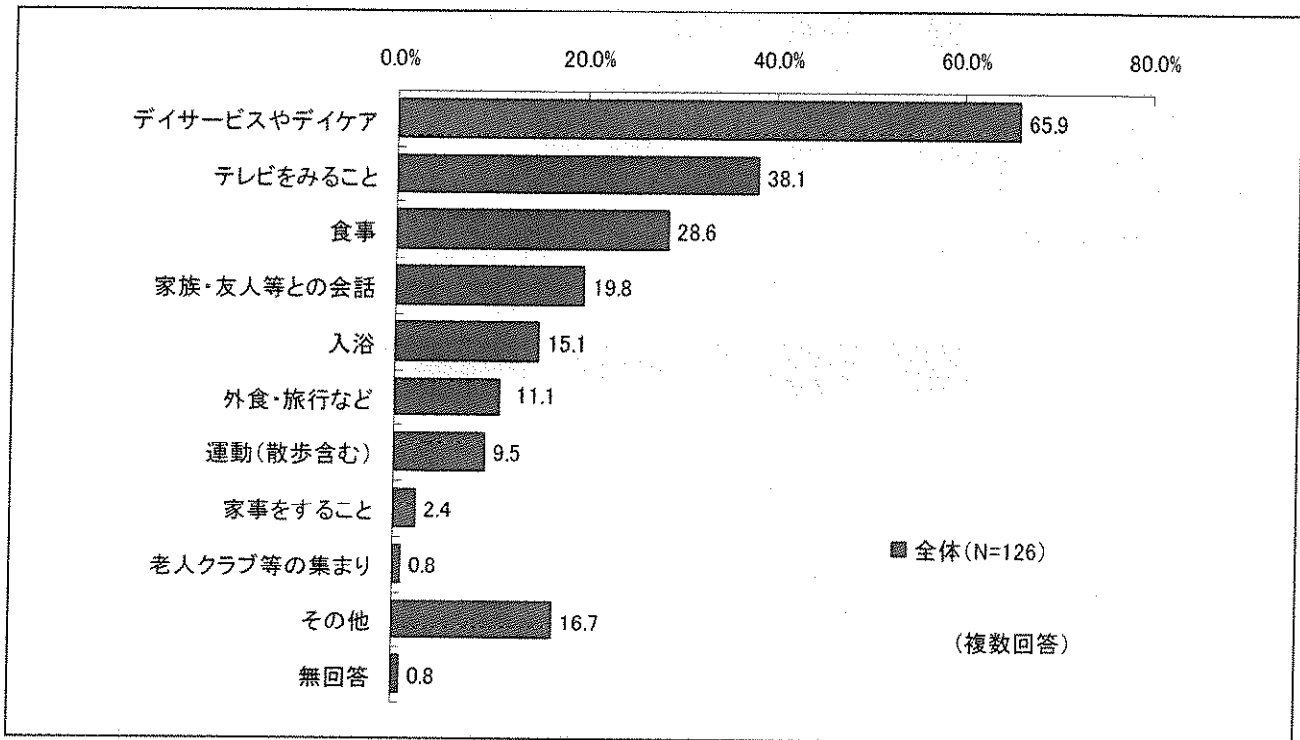
[認知症の疑いあり・医師が認知症と診断済みの方へ]
 問17 日頃から意欲を持って行っている活動、または、楽しみにしていることはありますか。
 (いずれか一つに○)



意欲的な活動の有無については、「ある」が半数弱（48.1%）を占めており、「ない」（30.9%）を上回っている。

② 意欲的な活動、楽しみの内容

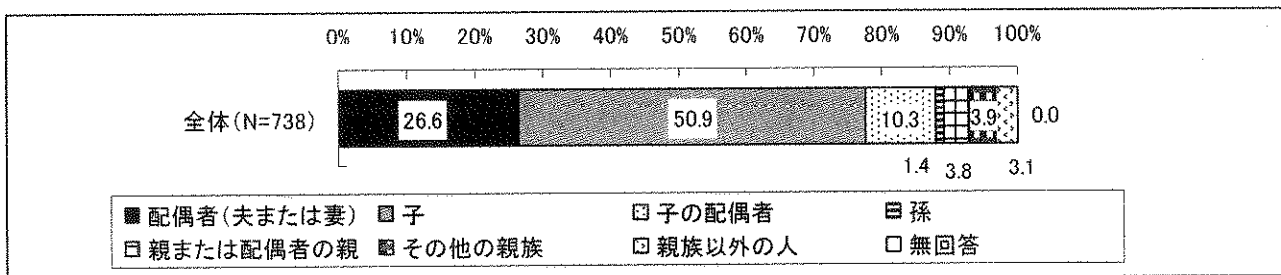
[意欲的な活動や楽しみがある方へ]
 問17-1 それはどのようなことですか。(複数回答可)



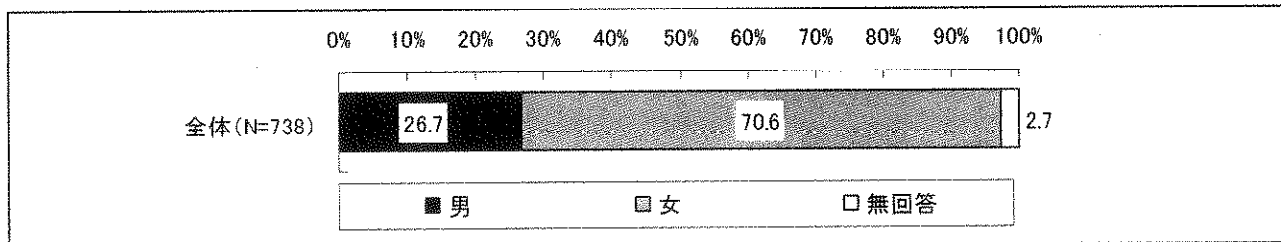
意欲的な活動がある人のその内容については、「デイサービスやデイケア」が6割以上(65.9%)で最も多く、次いで「テレビをみること」(38.1%)、「食事」(28.6%)となっている。

9. 家族（主な介護者）の状況

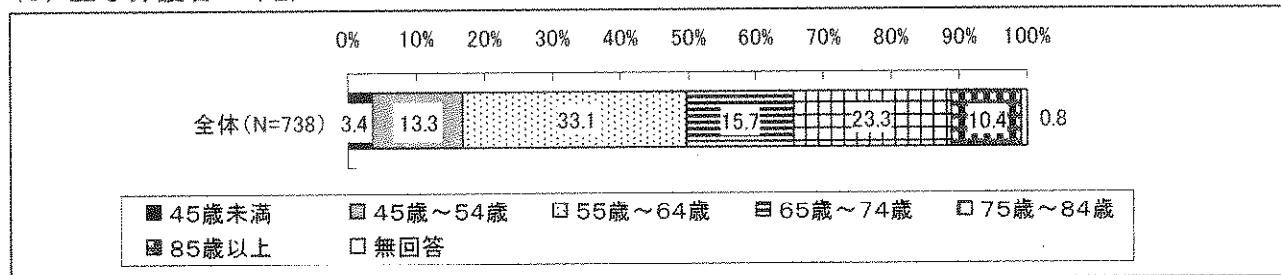
(1) 主な介護者の続柄



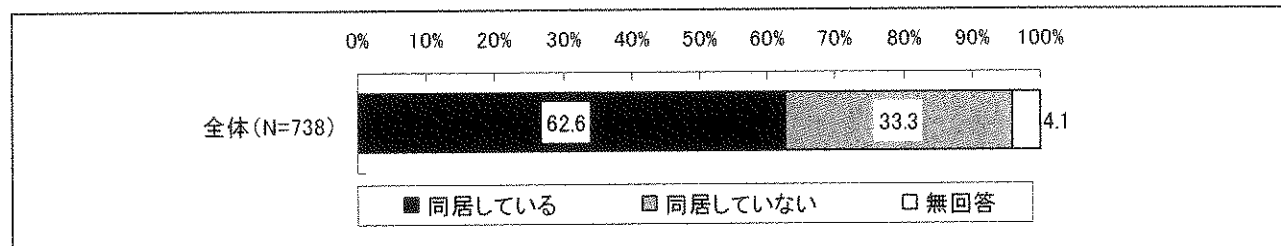
(2) 主な介護者の性別



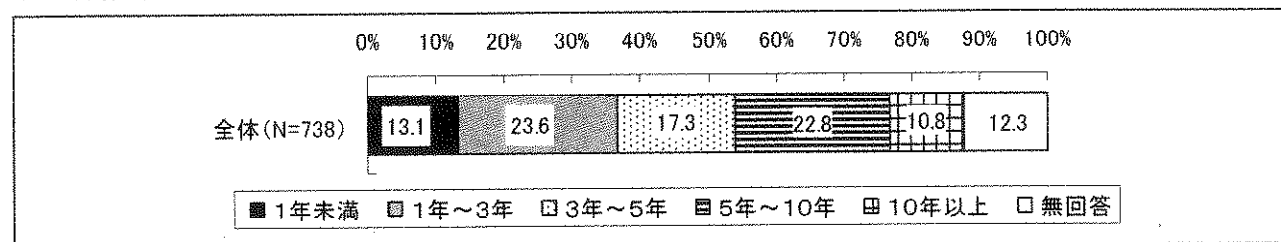
(3) 主な介護者の年齢



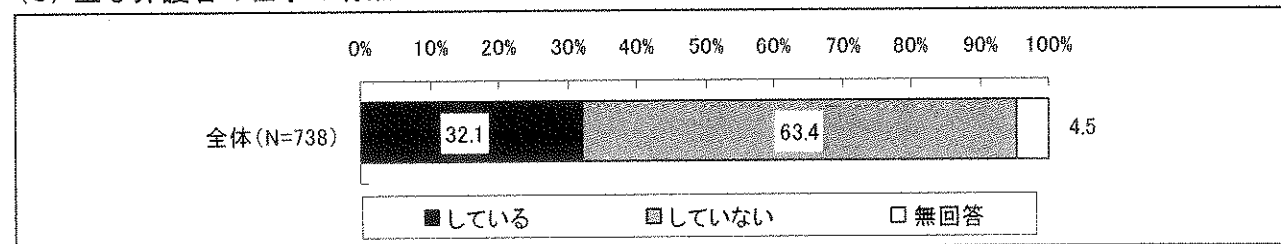
(4) 主な介護者の同居の有無



(5) 介護期間



(6) 主な介護者の仕事の有無



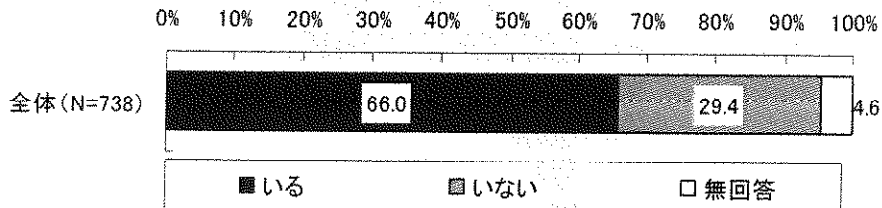
10. 家族（主な介護者）へのサポート

(1) 介護の手伝い

① 介護の手伝いの有無

[主な介護者へ]

問23 あなたには、介護を手伝ってくれる人がいますか。(介護サービスのスタッフを除く)。(いずれか一つに○)

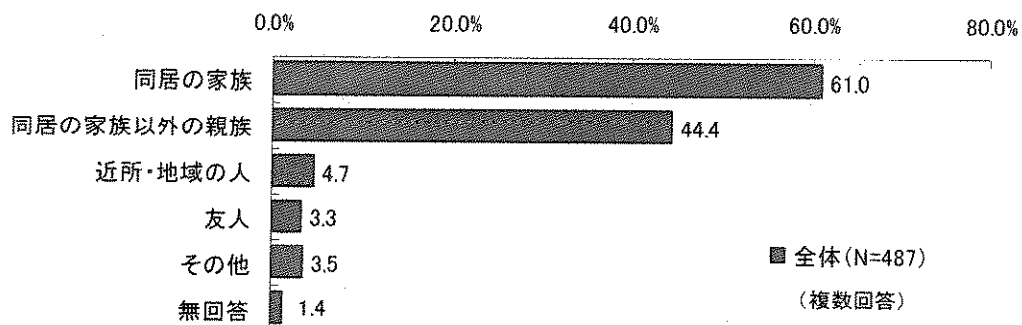


介護を手伝ってくれる人の有無について、「いる」が66.0%、「いない」が29.4%となっている。

② 介護を手伝ってくれる人との関係

[介護を手伝ってくれる人がいる方へ]

問23-1 その人はどのような人ですか。(複数回答可)



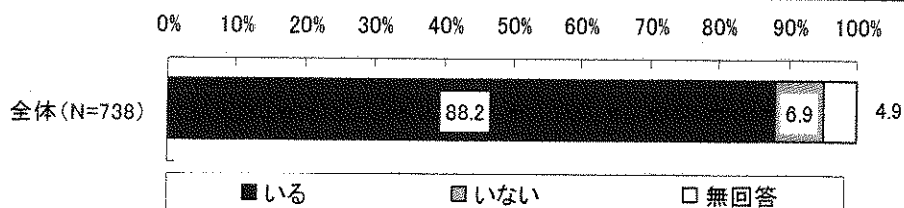
介護を手伝ってくれる人との関係は、「同居の家族」(61.0%)が最も多く、次いで「同居の家族以外の親族」(44.4%)となっており、家族が多くを占めている。

(2) 介護に関する相談先

① 介護に関する相談先の有無

[主な介護者へ]

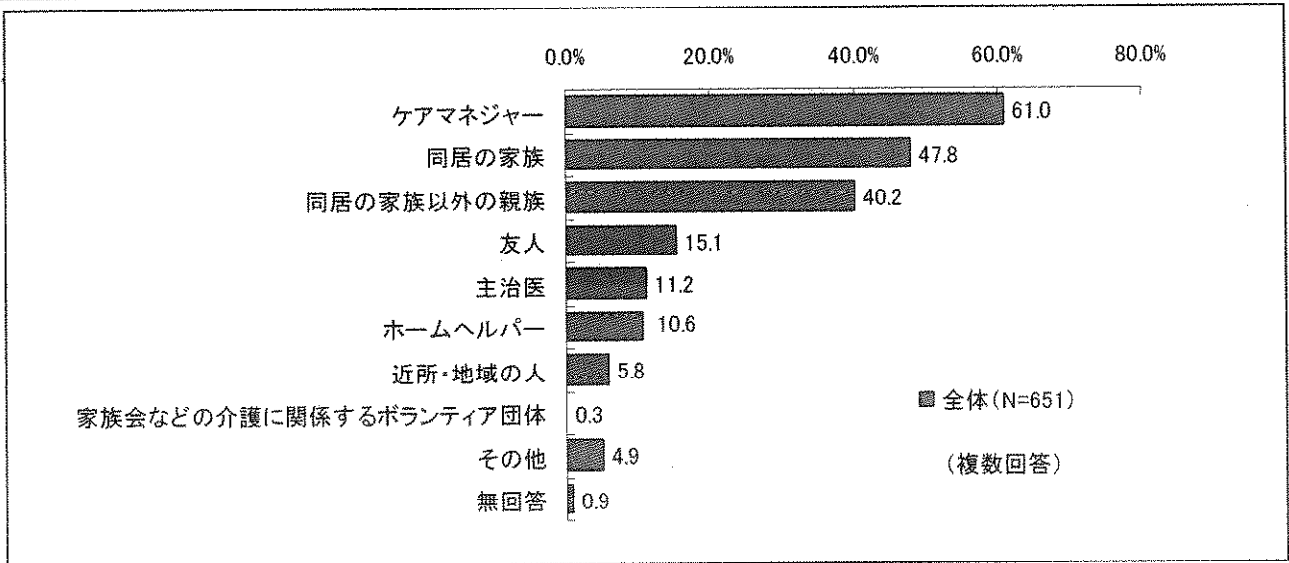
問24 あなたには、介護のことで何でも相談できる人はいますか。(いずれか一つに○)



介護のことで相談できる人の有無は、「いる」が88.2%となっている。

② 介護に関する相談先

[介護に関する相談先がある方へ]
問24-1 その人はどのような人ですか。(複数回答可)



介護に関する相談先は「ケアマネジャー」が6割(61.0%)で最も多く、次いで「同居の家族」(47.8%)、「同居の家族以外の親族」(40.2%)となっている。

《認知症自立度別》

概ね認知症自立度が重いほど「ケアマネジャー」に相談する割合は高くなっている。

(単位:%)

	調査数(人)	ケアマネジャー	同居の家族	同居の家族以外の親族	友人	主治医	ホームヘルパー	近所・地域の人	ボランティア団体	家族会などの介護に関するボランティア団体	その他	無回答
全体	651	61.0	47.8	40.2	15.1	11.2	10.6	5.8	0.3	4.9	0.9	
認知症自立度	自立	87	37.9	46.0	39.1	13.8	6.9	11.5	5.7	2.3	6.9	-
	I	157	53.5	54.1	40.8	13.4	10.2	8.9	7.6	-	4.5	1.3
	II a	110	69.1	41.8	40.9	18.2	10.9	13.6	5.5	-	4.5	2.7
	II b	168	66.7	46.4	41.1	15.5	10.7	7.7	3.0	-	4.8	0.6
	III a	107	70.1	48.6	41.1	15.9	15.9	15.0	7.5	-	4.7	-
	III b	10	70.0	50.0	10.0	10.0	10.0	-	10.0	-	-	-
	IV	10	80.0	40.0	40.0	10.0	30.0	10.0	10.0	-	10.0	-
	M	2	100.0	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

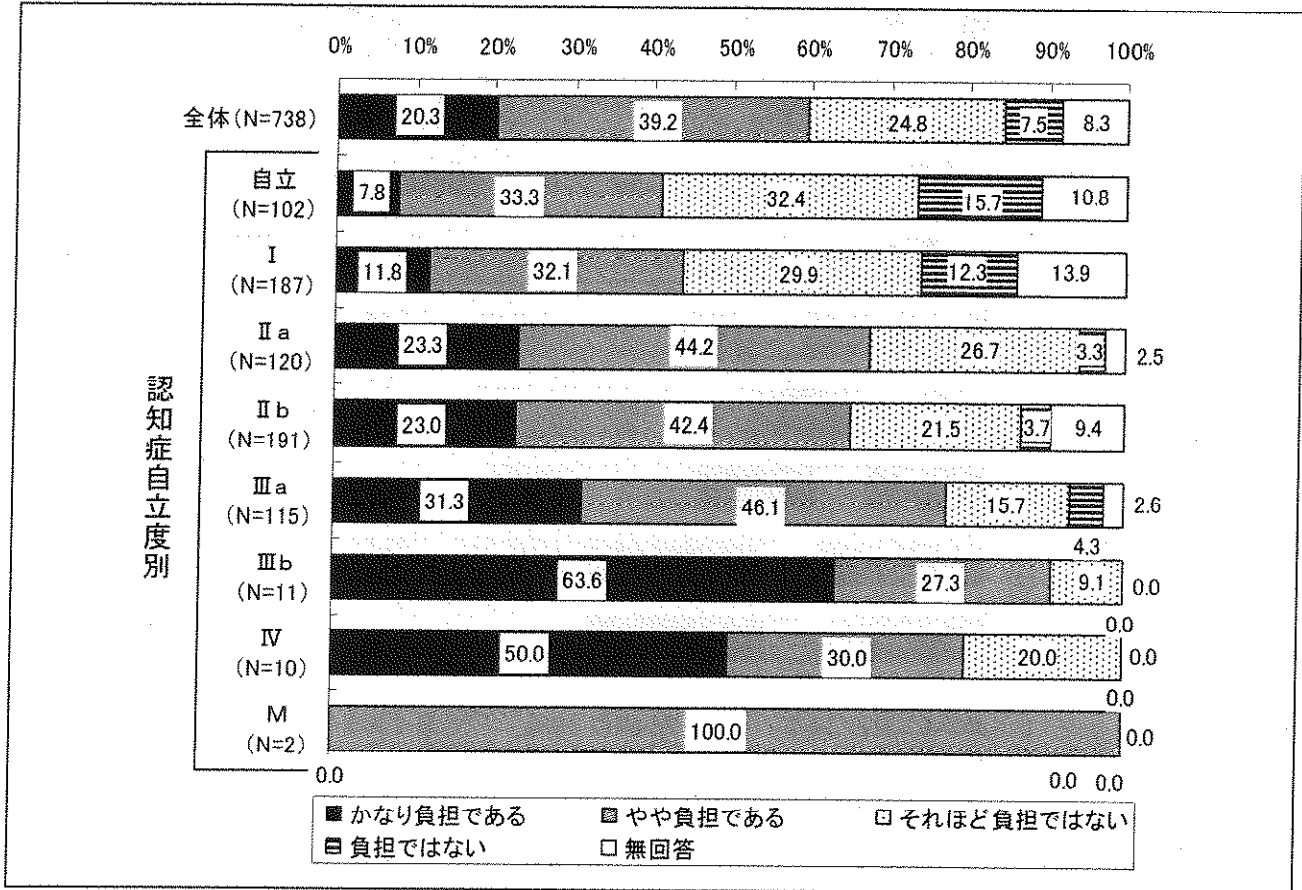
全体結果よりも5ポイント以上高い
 全体結果よりも5ポイント以上低い

1.1. 家族（主な介護者）の介護負担

(1) 介護の負担感

[主な介護者へ]

問26 あなたが感じている介護の負担感はどの程度ですか。（いずれか一つに○）



介護の負担感については、「やや負担である」(39.2%)が最も多く、これに「かなり負担である」(20.3%)をあわせた『負担を感じている』人は6割(59.5%)を占めている。

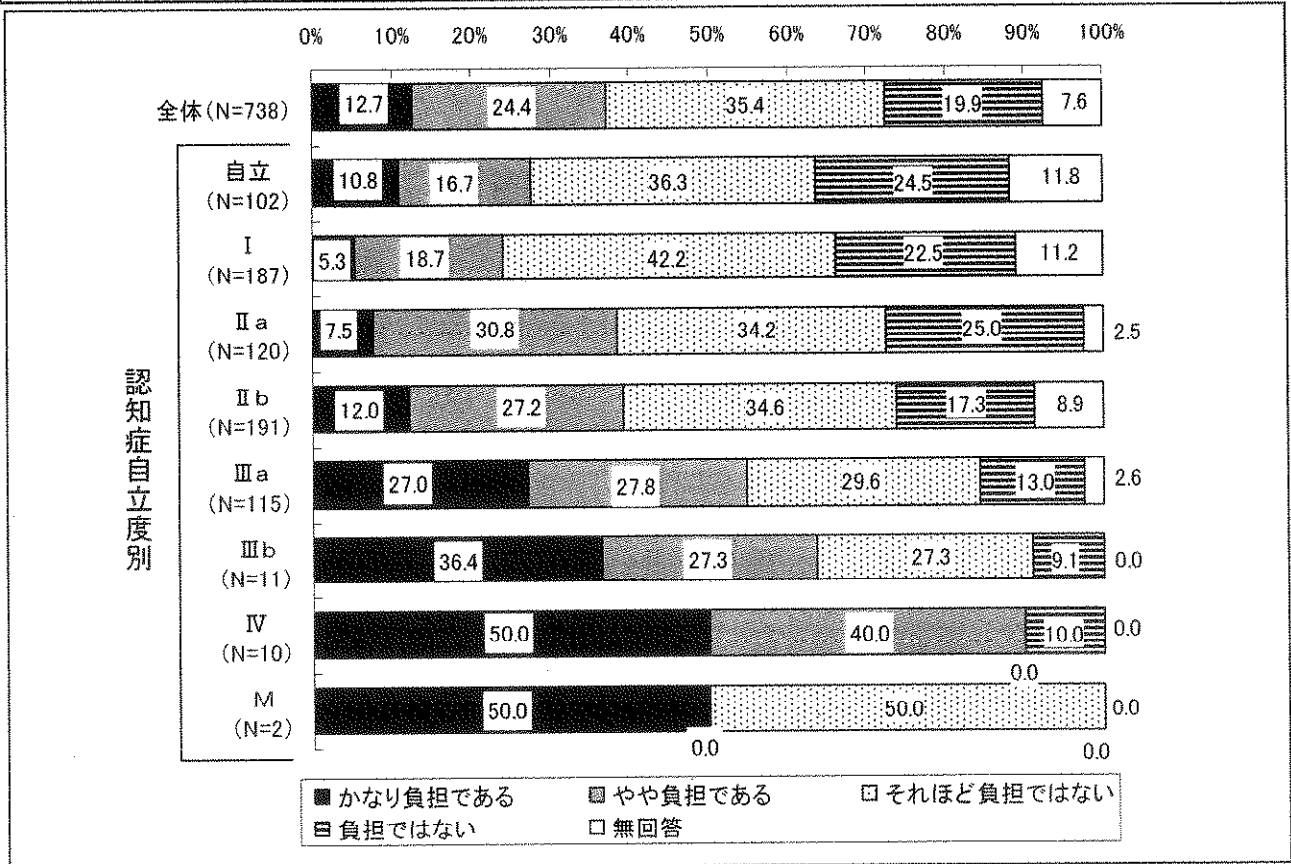
《認知症自立度別》

概ね認知症自立度が重くなるほど『負担を感じている』人の割合は高くなっており、II a～III aでは7割前後が、III b以上になると8割以上が負担を感じている。

(2) 介護の経済的負担感

[主な介護者へ]

問27 介護費用は経済的にどの程度負担になっていますか。(いずれか一つに○)



介護の経済的負担感は、「それほど負担ではない」が4割弱(35.4%)を占めて最も多いものの、「かなり負担である」(12.7%)と「やや負担である」(24.4%)をあわせた『経済的負担を感じている』人も37.1%を占めている。

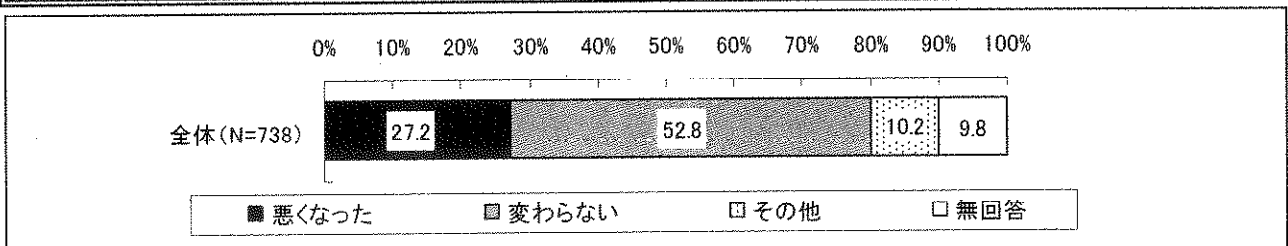
《認知症自立度別》

概ね認知症自立度が重くなるほど『経済的負担を感じている』人の割合は高くなっており、III a 以上では半数以上が負担を感じている。

(3) 健康状態の変化

[主な介護者へ]

問28 介護を始めてから、あなたの健康状態に変化はありましたか。(いずれか一つに○)

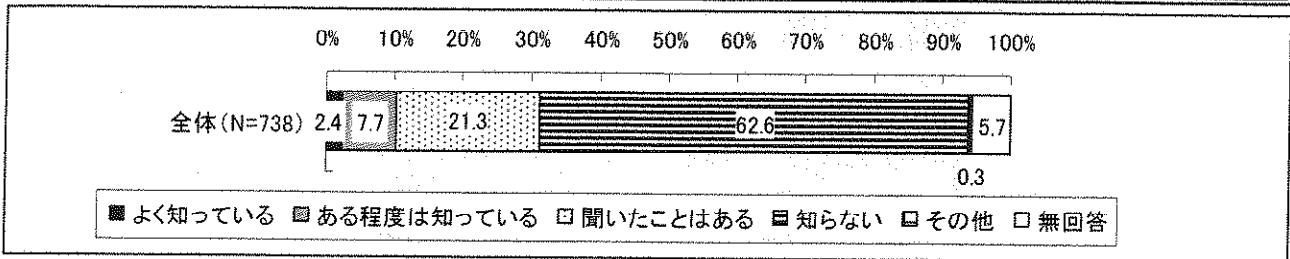


介護を始めてからの健康状態の変化は、「変わらない」が過半数(52.8%)を占めているものの、「悪くなった」も3割弱(27.2%)を占めている。

(4) 認知症コールセンターの認知度

[主な介護者へ]

問29 認知症コールセンターについて知っていますか。(いずれか一つに○)



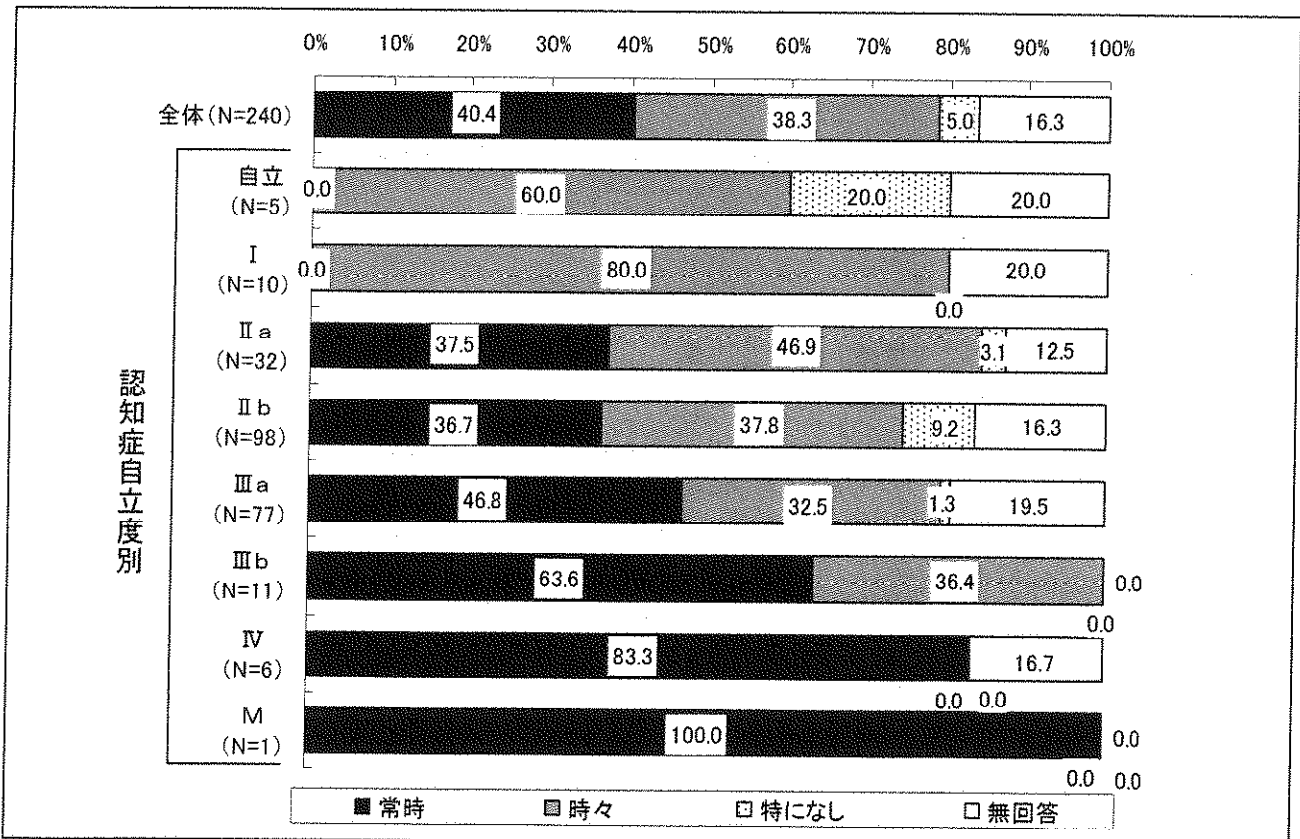
認知症コールセンターの認知度は、「知らない」が6割強（62.6%）を占めており、「よく知っている」（2.4%）と「ある程度は知っている」（7.7%）をあわせた『知っている』人の割合は1割（10.1%）に留まっている。

(5) 見守り、介助の必要度

[認知症の疑いあり・医師が認知症と診断済みの方の主な介護者へ]

問30 1日のうちで、見守りや介助はどのくらい必要ですか。(いずれか一つに○)

① 見守りの必要度

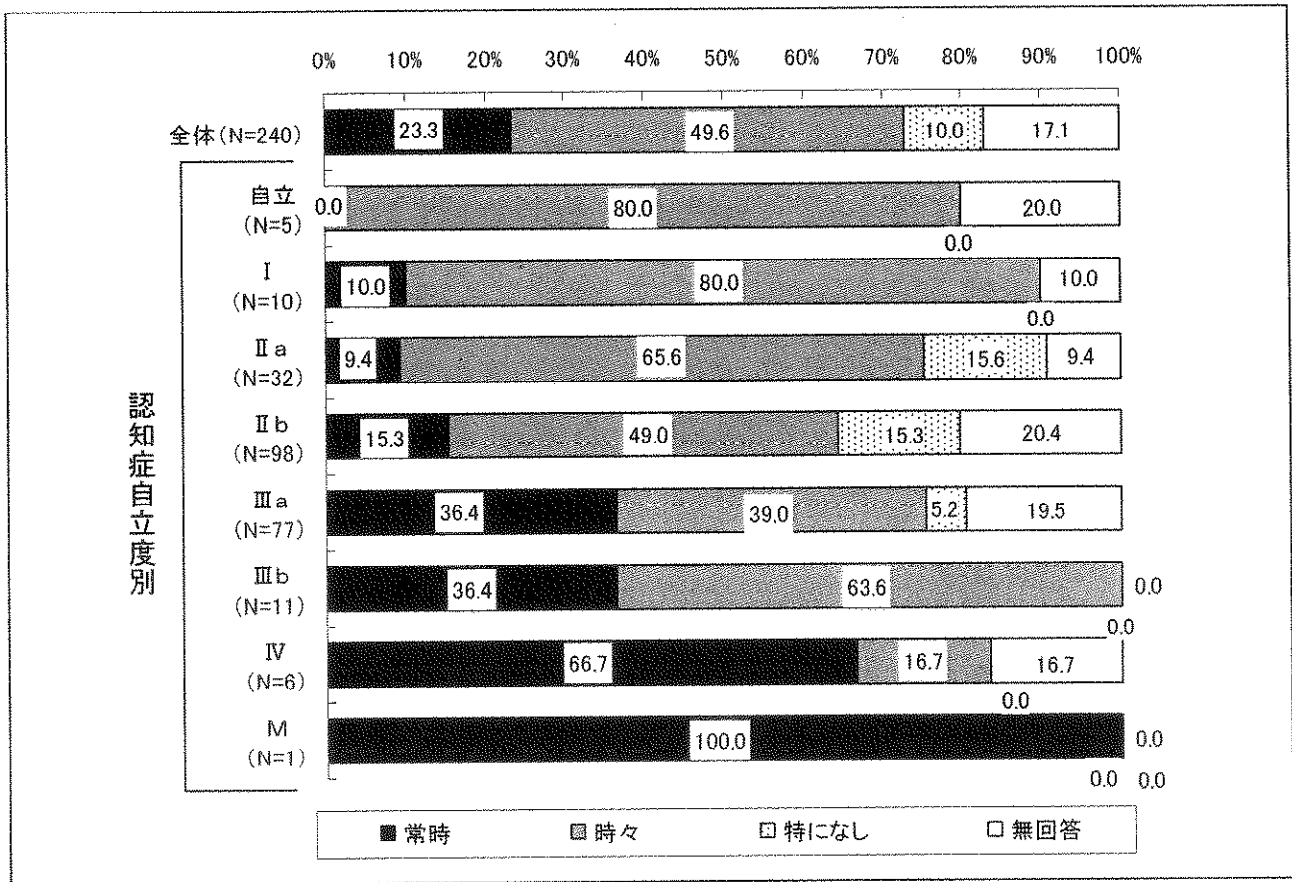


認知症（疑い含む）の人の見守りの必要度については、「常時」（40.4%）と「時々」（38.3%）が4割程度ずつとなっている。

《認知症自立度別》

認知症自立度が重いほど「常時」の割合は高く、II a・II bで4割弱、III a・III bで5～6割前後、IV以上では8割以上が常時の見守りを必要としている。

② 介助の必要度



認知症（疑い含む）の人の介助の必要度については、「時々」が半数（49.6%）を占めており、「常時」は2割強（23.3%）である。

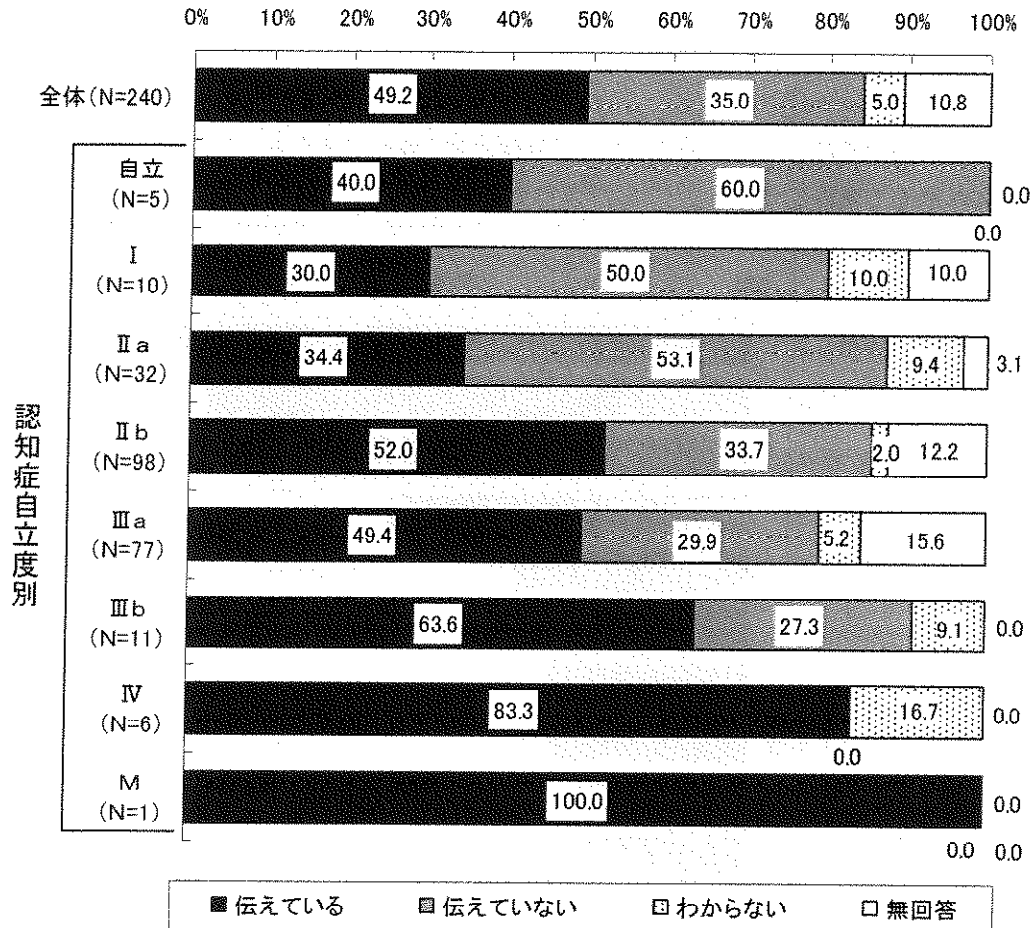
《認知症自立度別》

認知症自立度が重いほど「常時」の割合は高く、Ⅲa・Ⅲbでは4割弱、Ⅳ以上では6割以上が常時の介助を必要としている。

(6) 近所への説明

[認知症の疑いあり・医師が認知症と診断済みの方の主な介護者へ]

問31 ご近所の方に調査対象者の症状や状態について伝えてありますか。(いずれか一つに○)



近所の方への認知症の症状や状態の説明については、「伝えている」が半数（49.2%）を占めており、「伝えていない」（35.0%）を上回っている。

《認知症自立度別》

概ね認知症自立度が重いほど「伝えている」の割合は高く、軽度のI・II aは「伝えている」が3割程度で「伝えていない」の割合を下回るが、II b・III aでは半数前後、III b以上では60~100%を占めており、「伝えていない」の割合を上回っている。

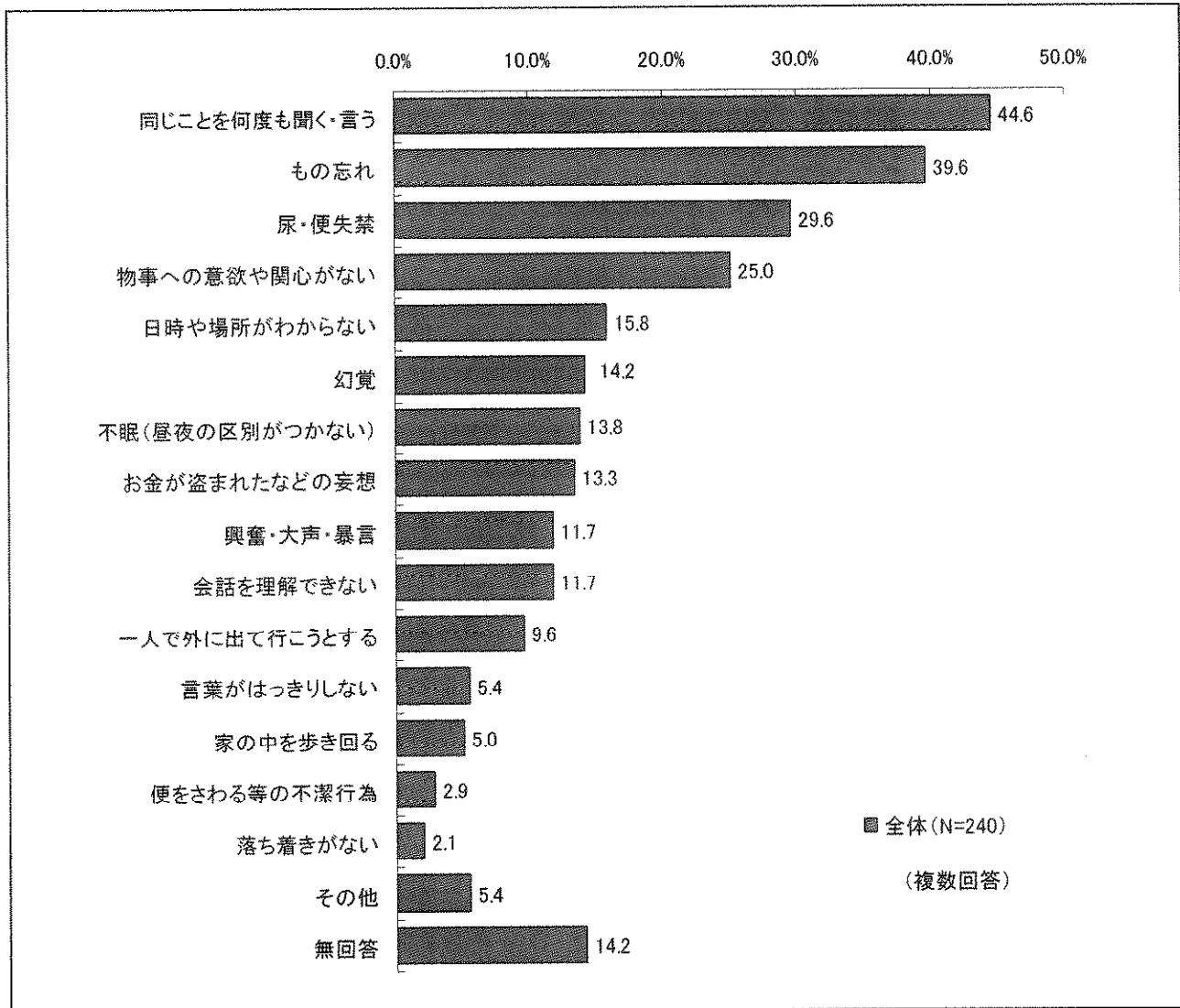
(7) 認知症症状の負担感

[認知症の疑いあり・医師が認知症と診断済みの方の主な介護者へ]

問32 現在、ご本人に見られる症状や状態で、あなたが負担に感じることはどのようなことですか。下の記入欄に最も負担に感じることから順に3つ番号をあげてください。

■複数回答として集計

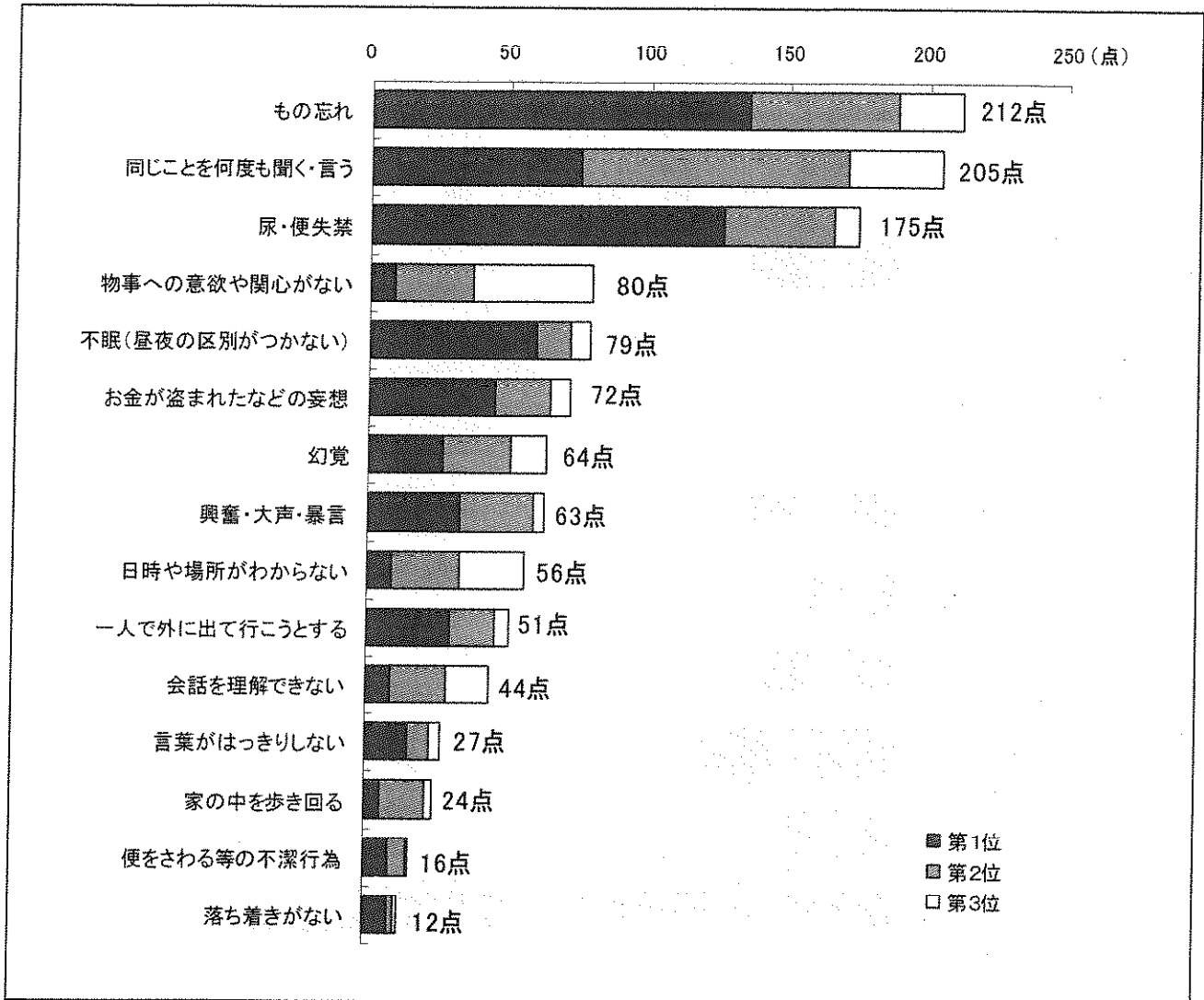
※第1位～第3位の回答順位の強さを度外視し、設問文を「負担に感じることを3つまで○を付けてください」と読み替えて集計している。



認知症の症状や状態で介護者が負担に感じていることは「同じことを何度も聞く・言う」(44.6%)が最も多く、次いで「もの忘れ」(39.6%)、「尿・便失禁」(29.6%)、「物事への意欲や関心がない」(25.0%)となっている。

■負担度

※各選択肢が第1位～第3位に選ばれた度数（ボリューム）に、順位の強さ（第1位＝3点、第2位＝2点、第1位＝1点）を配点した負担度を算出。ここでは720点満点中の点数となる。



負担度が最も高いは「もの忘れ」(212点)であり、次いで「同じことを何度も聞く・言う」(205点)、「尿・尿失禁」(175点)となっており、これらは以下に大きく点差をあげて高く、特に負担度が高いことが分かる。

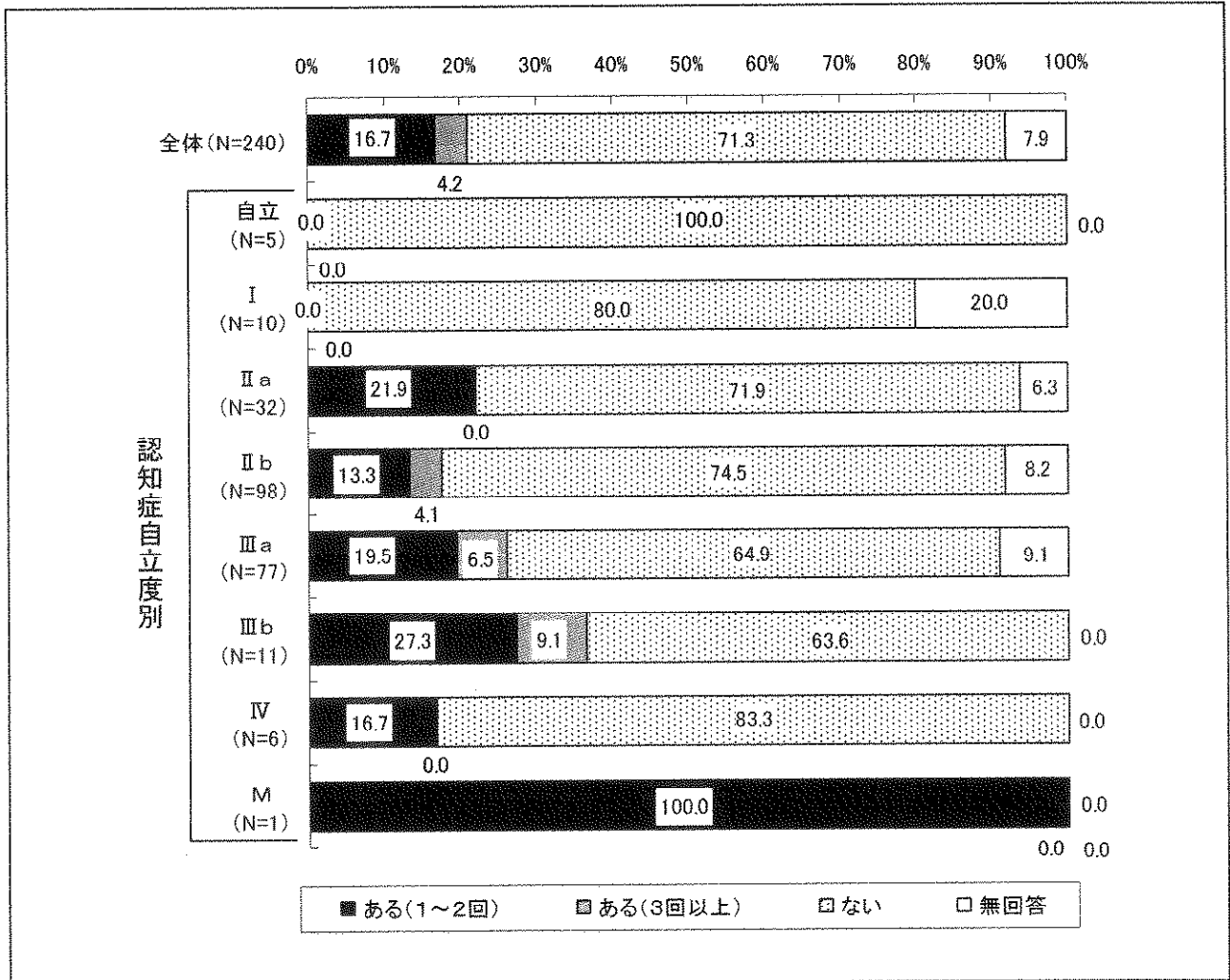
一方、負担度が比較的小さいのは「落ち着きがない」(12点)や「便をさわる等の不潔行為」(16点)等である。

(8) 徘徊について

① 行方不明になったこと

[認知症の疑いあり・医師が認知症と診断済みの方の主な介護者へ]

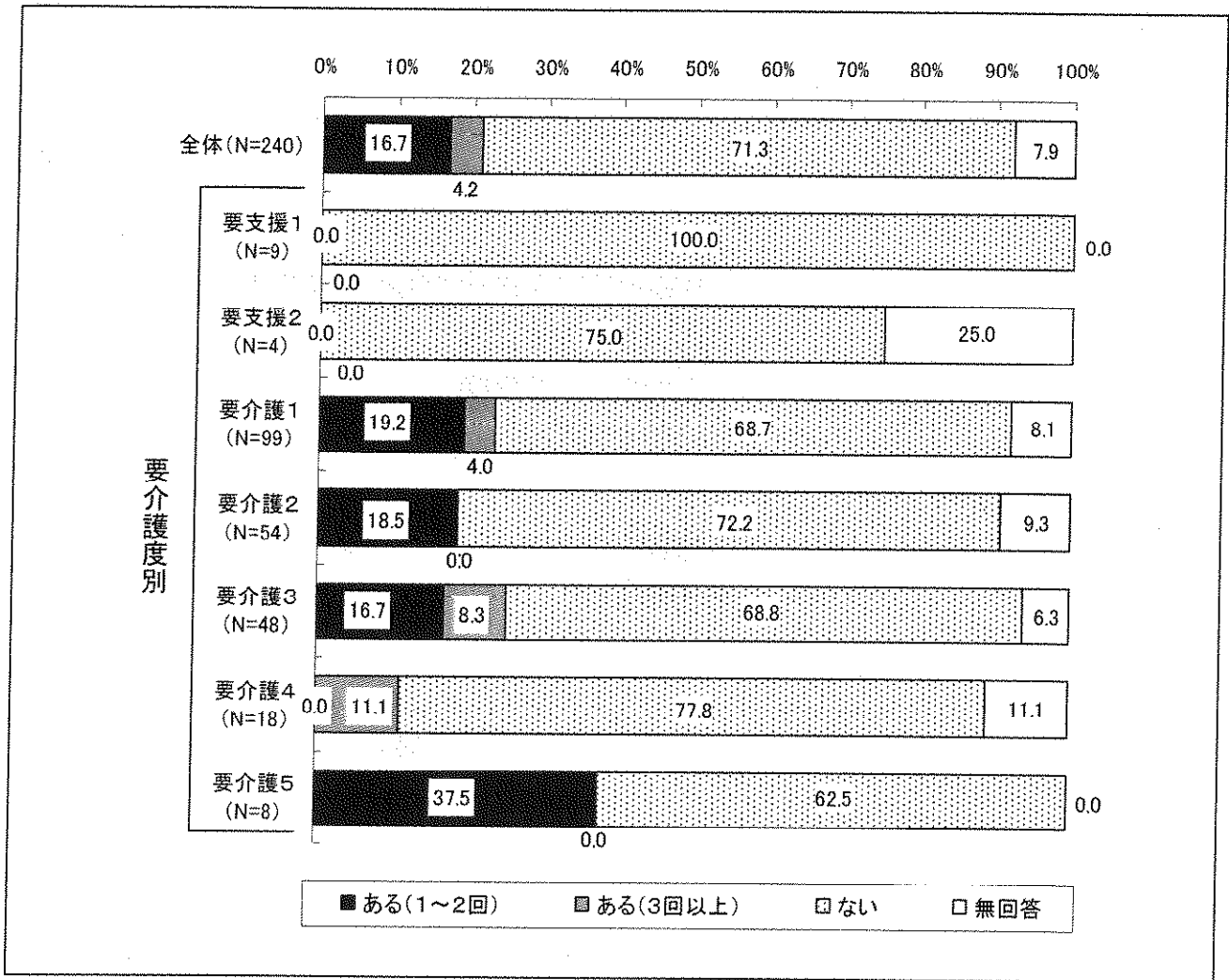
問33 ご本人が今までに、行方不明（戸外に出たまま行方が分からなくなった状態）になったことがありますか。（いずれか一つに○）



認知症(疑い含む)の人が行方不明になったことがあるか尋ねたところ、1~2回ある方は16.7%、3回以上ある方は4.2%であり、これらをあわせると行方不明になったことがある人は2割(20.9%)を占めている。

《認知症自立度別》

サンプル数が少ないため注意が必要だが、III a・III bでは行方不明になったことがある人が3割前後を占めており、他に比べて割合が高い。

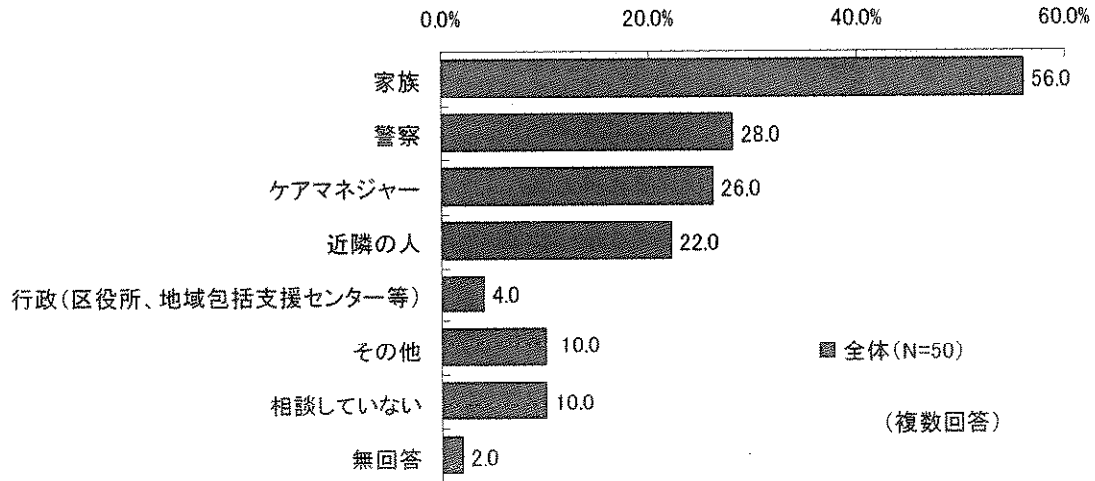


《要介護度別》

サンプル数が少ないため注意が必要だが、行方不明になったことがある人の割合は、要支援認定者ではおらず、要介護認定者ではそれぞれ1~4割を占めている。

② 行方不明になった時の相談先

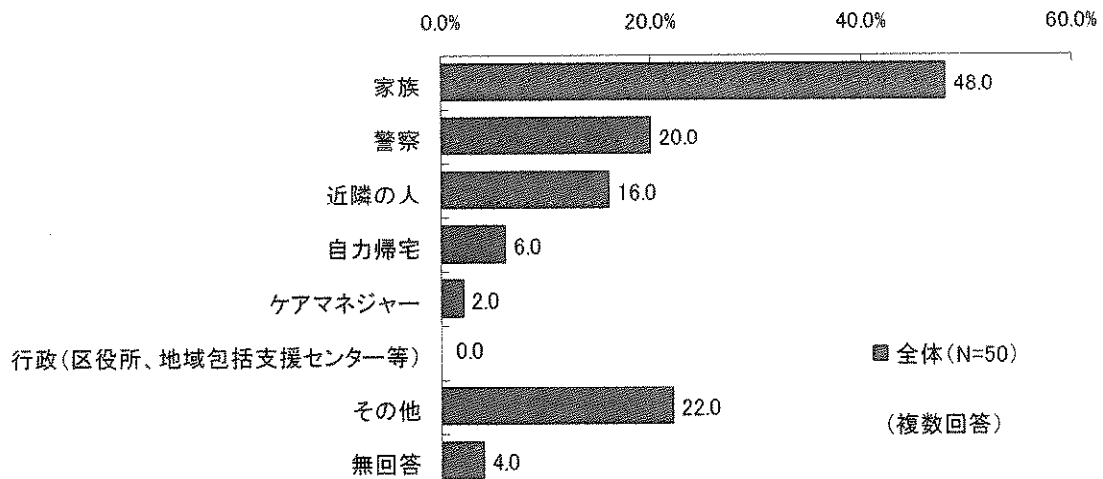
[行方不明になったことがある方へ]
問33-1 その時どなたかに相談しましたか。(複数回答可)



行方不明になった時の相談先は「家族」が半数以上(56.0%)で最も多く、次いで「警察」(28.0%)、「ケアマネジャー」(26.0%)となっている。

③ 行方不明者を見つけた人

[行方不明になったことがある方へ]
問33-2 ご本人はどなたが見つけましたか。(複数回答可)



行方不明者を見つけた人は、「家族」が半数程度(48.0%)で最も多く、次いで「警察」(20.0%)、「近隣の人」(16.0%)となっている。

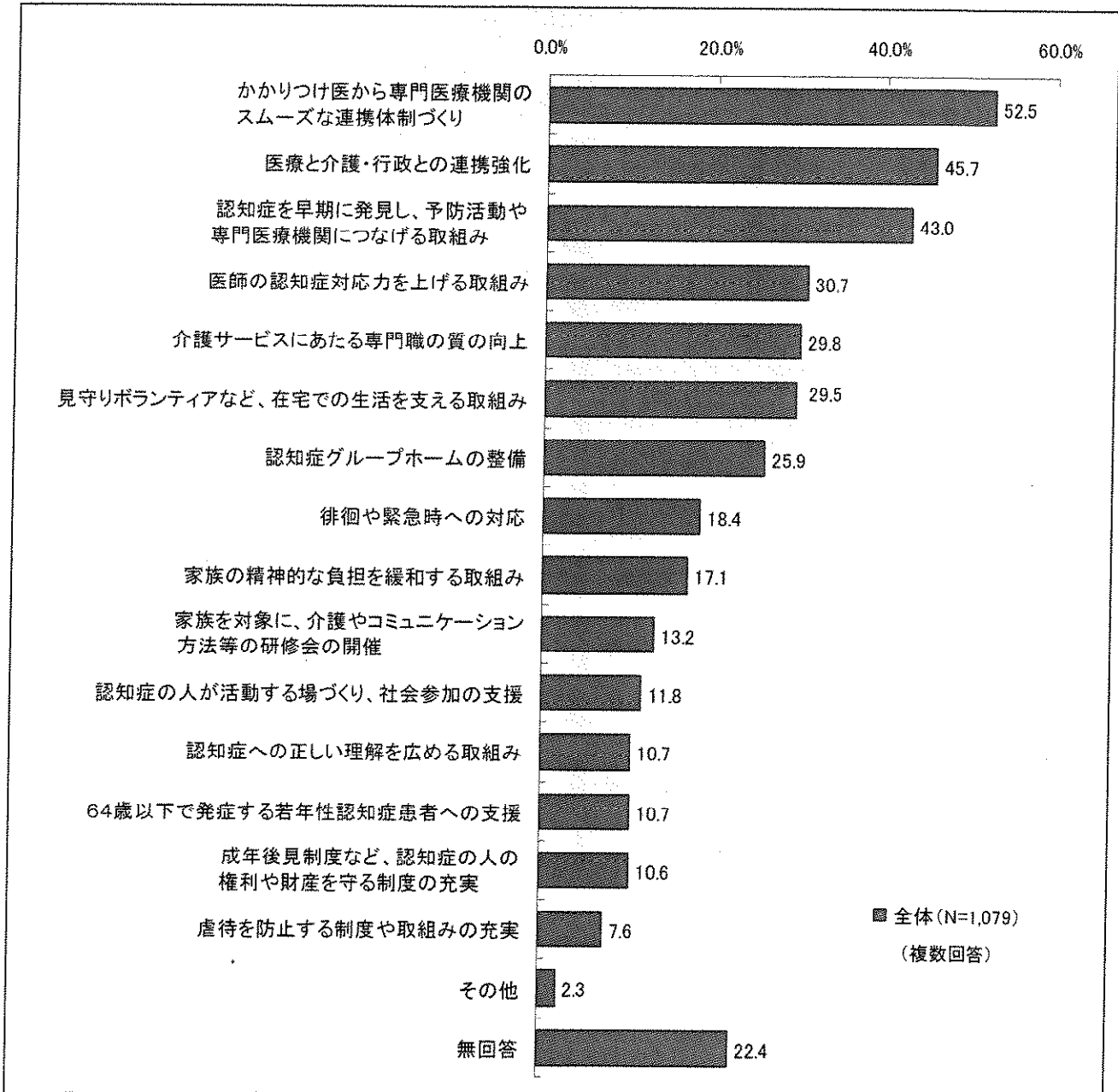
また、「その他」も22.0%を占めているが、その内容としては「デイサービス等の施設の職員」や「通りすがりの人が通報」等があがっている。

1.2. 認知症対策の重視度

問34 今後、認知症対策を進めていくうえで、北九州市はどのようなことに重点を置くべきだと考えますか。下の記入欄に最も重点を置くべきと考えるものから順に、5つまで番号をあげてください。

■複数回答として集計

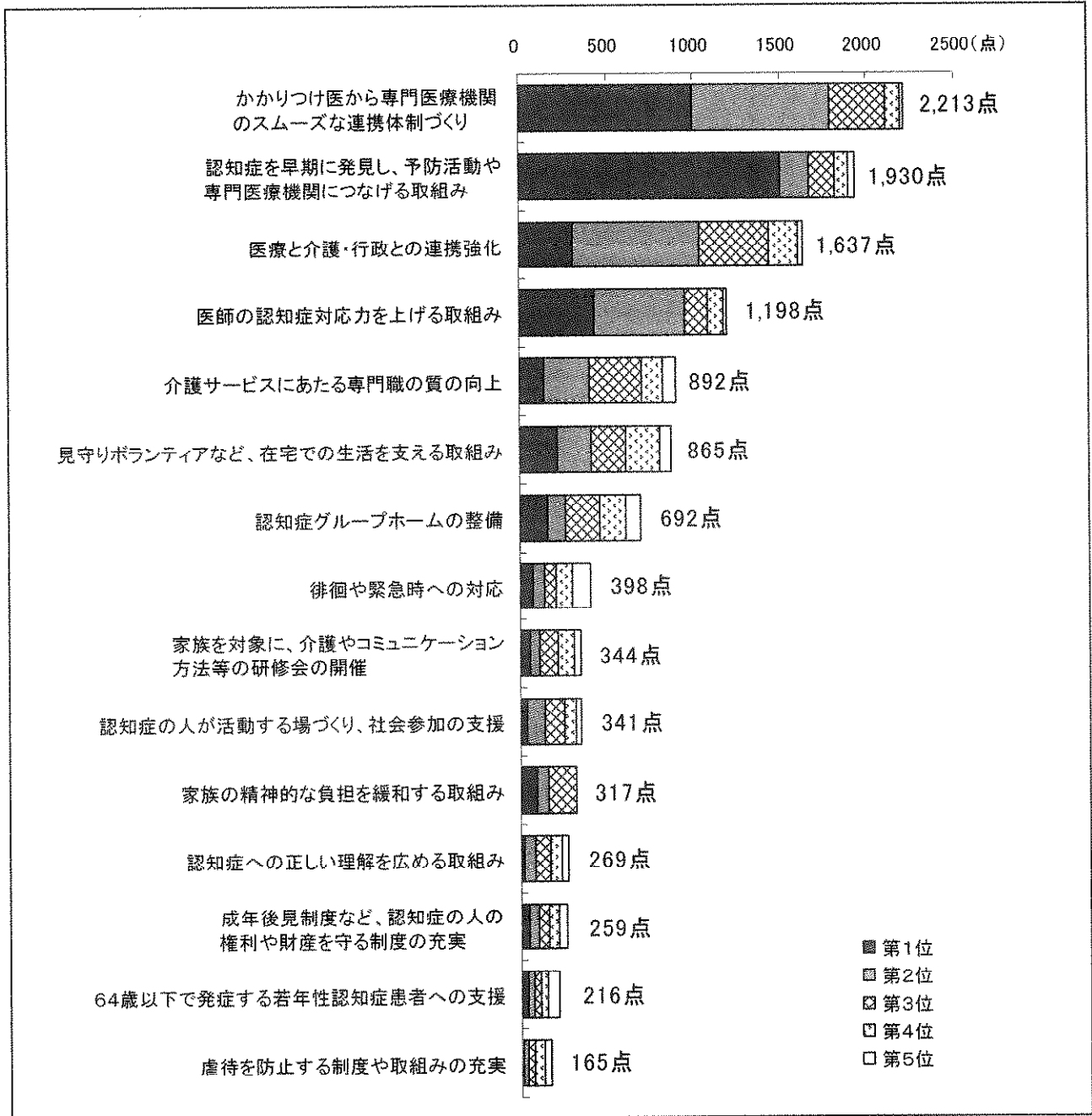
※第1位～第5位の回答順位の強さを度外視し、設問文を「重点を置くべきと考えるものに5つまで○を付けてください」と読み替えて集計している。



認知症対策として北九州市が重点を置くべきことは、「かかりつけ医から専門医療機関のスムーズな連携体制づくり」が半数以上（52.5%）で最も多く、次いで「医療と介護・行政との連携強化」（45.7%）、「認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療機関につなげる取組み」（43.0%）となっている。

■重視度

※各選択肢が第1位～第5位に選ばれた度数（ボリューム）に、順位の強さ（第1位＝5点、第2位＝4点、第3位＝3点、第4位＝2点、第5位＝1点）を配点した重視度を算出。ここでは5,395点満点中の点数となる。



重視度が最も高いのは「かかりつけ医から専門医療機関のスムーズな連携体制づくり」(2,213点)であり、次いで「認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療機関につなげる取組み」(1,930点)、「医療と介護・行政との連携強化」(1,637点)となっている。